



2021

鎮西学院大学

海外留学プログラム案内

Study Abroad Program Information



# 鎮西学院大学

## 目次

バギオ大学

University of Baguio

ベルジャヤ大学

Berjaya University College of Hospitality

山東外国語職業学院

Shandong Foreign Language Vocational College

天津師範大学

Tianjin Polytechnic University (China Study Tour)

仁徳大学

Induk University

フレイザーバレー大学

University of the Fraser Valley

タイ・カンボジアスタディツアー

Thailand/Cambodia Study Tour

フィリピンアウトリーチ

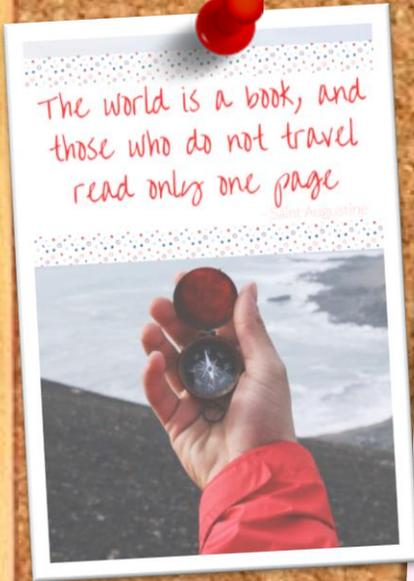
Philippines Outreach



# University of Baguio







The world is a book, and those who do not travel read only one page

Hi everyone! I'm Daisuke and I'm 2 year-grade of Foreign language course at NWU. I went to Baguio in Philippines to study English and culture for 5 months from August to December. (私は2018年の8月から12月までフィリピンのバギオ市にあるバギオ大学へ交換留学生として半年間留学してきました。)この半年間はとて自分にとって勉強となりました。また、ホームステイというもあり、フィリピンの習慣に慣れるのがとても大変でした。私がお世話になったホームステイ先は、フェルナンデスさん御一家で、家族みんな優しく、親切で、私と実の子のように接してくれて、充実な半年間が送れました。時々、私が迷惑をかけてしまい、家族で話し合いになったこともありましたが、それでも親切に接してくれました。また、フィリピンの家族はお互いの関係がとても素晴らしく、羨ましいなと毎日思っていました。毎日ご飯は共に食べ、学校の登下校、また毎週日曜日は家族の日で、みんなで出かけたり、教会へいったりと一緒に時を過ごす。彼らはお互いに尊敬し合い、その1つの行動として、両親や両親の兄弟、両親の親に外であったり、また、自分が家に帰ってきた時、両親が家に帰ってきた時、彼らの元へ行き、両親の手の甲を額に当てることです。どんなときであれ、しなければならぬことでした。ほかに、尊敬の表現の仕方がありますが、本当に子供たちは両親を尊敬していると思いました。それに、ホストマザーの料理が本当に美味しく、お腹がすいてなくても食べてしまうくらいです。

バギオ大学には、多くの学科があり、医療から建築、もちろん英語もあります。生徒数も多く、バギオ市で3番目に大きな大学です。また、バギオ市は教育の都市と言われ、学生が30万人います。

大学では、語学学校ではなく、普通に大学の学科へ入り、フィリピン人や学生と一緒に勉強をするという形で、英語を英語でするので、初めは本当に何を言っているかわからないし、黒板の字も読めませんでした。初めの1ヶ月間は自分の実力に落ち込み、逃げたいって思っていました。しかし、クラスメイトや家族、また、日本人の留学生の助けもあって、持ちこたえることができました。沢山の友達もでき、休み時間や休日は、どこかへ連れて行ってもらったり、勉強したり、また日本語を教えて欲しいという生徒も沢山いて、日本語を教えて、私は英語やフィリピンのタガログ語を学び、お互いに勉強の毎日でしたが、それ以外にも文化など学ぶことが沢山ありました。本当に素晴らしい友達に出会えました。

Lastly, what is your image of Philippines? The climate is very hot or the sea and view is very beautiful? It's true but you have to see another place. Philippines is developing country. So there are some place that it haven't developed yet. If you go there, you'll think that Japan is very nice country. But also Philippines is very nice country. So I recommend you go to the other country so that you can understand what is good. Okay. See you then! (フィリピンのイメージは暑い国？海や景色が綺麗な国？けど、フィリピンは発展途上国の国でもあって、まだ開発されていない地域もあります。そこを見たら、日本がどれだけ良い国がよくわかんかでしょうか。他の国に行くことで日本の良さ、また、なにが良いのかがわかると思います。では、また！)

DUさん





私は2016年8月～12月までのおよそ5ヶ月間、フィリピンのバギオ大学へ交換留学をさせていただきました。現地での暮らしや学習について紹介したいと思います。

さて、フィリピンと言えば「常夏の国」というイメージがあると思いますが、今回留学をしたバギオ大学のあるバギオ市は、フィリピンの北に位置し、首都のマニラからは車で約5時間かかります。年中涼しく過ごしやすい気候で、避暑地としても有名です。市内には4つの大学の他にも多くの語学学校があり、市内の中心部はいつも多くの若者で賑わっています。

バギオ大学と長崎ウエスレヤン大学は何年も前から協定を結んでいます。バギオ大学には11の学部、2つの高校、そして小学校があり、1万8千人近い学生と4百人以上の教職員が在籍しています。私はその中の一つ、英語学科に在籍していました。

バギオ大学はウエスレヤン大学と違って、月・水・金と火・木・土が同じ授業になっています（今年から土曜の授業はなくなっているようです）。そのため、日本にいたころのように週末にまとめて復習するのではなく、毎日予習と復習をしなければなりません。また、一学期に3回のテストがあるため、常に勉強しておく必要があります。

最初の1ヶ月間は、周囲のタガログ語混じりの英語と、慣れない英語の専門用語に苦戦し、授業の内容が半分も理解出来ませんでした。そして特に大変だったのがフィリピン文学の授業です。毎回の授業で最低でも1作品は学ぶため、復習は出来ても予習の時間が取れないことが多く、授業についていけない日や、小テストでも点数が取れない日が続き、とてもハードな科目でした。

しかし一ヶ月が経った頃、そんな私に見かねたクラスメイトの女の子が、空き時間を利用して物語を簡単な英語で要約してくれたり、テスト対策として口頭でクイズを出してくれたりしたおかげで、なんとかやり遂げることが出来ました。

また、タガログ語の授業では、アメリカや韓国からの留学生の他、インドネシアやソマリア、チャドやヨルダンなど様々な国の留学生と一緒に学びました。この授業ではタガログ語を学ぶだけではなく、自国の文化をプレゼンしたり、各国の伝統的な料理を振る舞ったりしました。そうしたことで、普段あまり意識することのなかった日本についてはもちろん、異文化への理解を深めるきっかけになりました。

さて、フィリピンでの生活ですが、長崎ウエスレヤン大学に留学経験があるホストファミリーと陽気でおしゃべり好きなホストマザー、私がフィリピンに行く前年に長崎ウエスレヤン大学に留学をしていたホストファミリーとホストシスター、日本の文化が大好きなホストマザーの妹など、日本に理解のある大家族がフィリピンでの生活をサポートしてくれました。

朝と夜は家でホストファミリーと、昼は大学内に二箇所あるフードコートや大学近くのカフェでクラスメイトと一緒に食事をとります。ホストマザーの美味しい手料理はもちろんですが、大学内のフードコートには3つのコンビニと10以上の店舗があり、それぞれ扱っている料理も様々なので、毎日飽きることなく食事を楽しむことが出来ました。私はそこで売られているパンシットと呼ばれる100円ほどで購入できるフィリピン風の焼きそばがお気に入りでした。

唯一の休日である日曜日は、同じ家にホームステイしていた日本人の女の子2人とバギオ観光をしたり、ホストファミリーやクラスメイトとランチをしたりする事が多かったです。日本では、休日には友達と遊びに出かけることが多かったのですが、多くのフィリピンの人たちは家族で過ごすことが多いようでした。

私のホストファミリーも例外ではなく、休日はおじいちゃんとおばあちゃんの家に行き、親戚一同が集まって一緒にランチをすることが多かったです。そのほか、バギオには観光名所やおいしいレストランが多くあるので、休みの日に遊ぶ場所には困らないのが良いところではないかと思います。

フィリピンでは学習面でも生活面でも想像以上に大変なことが多く、ここだけの話、「早く日本に帰りたい!」とおそらく1万回以上は思いました。それでも、一緒に時期に留学した福岡女学院の8人と支えあい、励ましあいながら、なんとか無事に留学を終えることが出来ました。

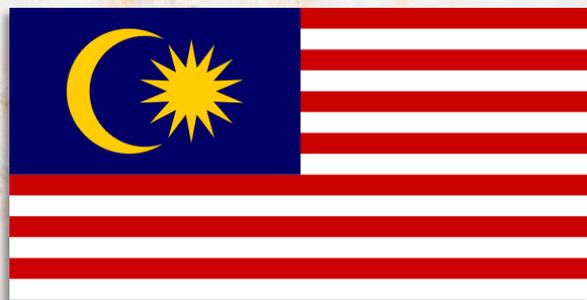
バギオ大学への留学は終わりましたが、留学したことで新たな目標も見付かり、今はその目標に向かって勉強をしています。

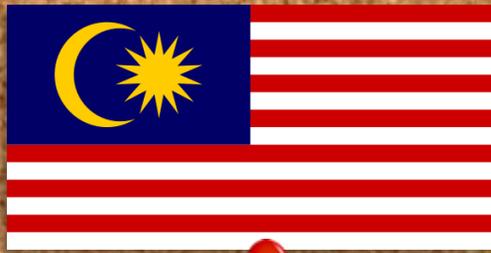
留学する機会をくださった長崎ウエスレヤン大学の先生方には本当に感謝しています。

夢を叶えてウエスレヤンに恩返しができるよう、これからも努力を続けたいと考えています。

TSさん

# **Berjaya University** **College of Hospitality**





私が留学したのはマレーシアの首都クアラルンプールにあるベルジャヤ大学です。魅力的な町並みなど日本にはない景色をたくさん見てきましたが、私がそこに来て一番驚いたのは宗教が日常に根付いていることです。マレーシアはイスラム教徒の人が多く国です。スーパーの食品やレストランなどにはハラールと書かれたマークがあります。これはイスラム法上で食べることを許された食品につけられるロゴで豚肉を不浄なものとして口にできない人々にとってとても重要な目印です。ほかにも空港の中に礼拝室があったりと宗教に関して改めて考えさせられました。特に面白かったのがムスリムの女の子を主人公にした子供向けアニメがあることです。また、女性が常に巻いているヒジャブと呼ばれるスカーフはファッションの一部のようになっていて柄物やパステルカラーなど毎日変えて楽しんでいる人もいて最初は窮屈そうだなと思っていましたが楽しみの一つになっているのだなと見方が変わりました。このようにイスラム教だけでも様々な文化を見ることができてとても良い経験になりました。

次に私が学んだのはコミュニケーションです。英語を使っているコミュニケーションはとても大変でした。韓国からの留学生と話す機会がありましたがそこはお互い大変でした。なかなか言いたいことが伝わらなかったりとてももどかしい思いをしました。どうしても分らなかったときは携帯の翻訳機を使い見せ合いつつ会話をしました。おそらくもどかしいのは私だけでなく、相手もそうだったと思います。しかし私の言うことを理解しようとしてくれたので、自分も頑張らなければと思いました。母国語以外の言葉で伝えることがこんなにも難しいのかと実感しました。

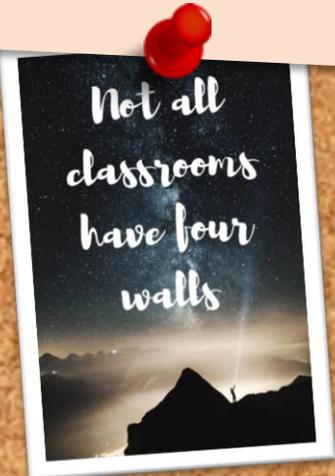
インターンシップでは私は大学の教務課で働くことになりました。ここでは学生情報や成績を管理しているところで、私は書類の整理などをしました。周りの人たちもとても親切で色々な食べ物をすすめてくれました。私が食べたのはカリパフとよばれる食べ物でパリパリの皮にカレー味のポテトが入った国民的グルメです。旅行するだけでは出会えないような家庭の味にも出会えてとても感動でした。

今回の留学はとても貴重な機会だったなと思います。たくさんの体験を通して視野がとても広がりました。先生やガイドなどの引率がなく最初はとても不安でしたがたくさんの人に助けられ、自信も付いたと思います。これからもこの経験を糧に視野を広げ多くのことを学んでいきたいです。

写真説明

- 1 枚目がカリパフと呼ばれるマレーシアの国民食（インターン先のひとが作ってくれました。写真は入れ歯(?)に見えますが美味しいです。)
- 2 枚目がムスリムの女の子を主人公にしたアニメ
- 3 枚目が空港内の礼拝室のマーク。東京オリで日本の空港も要対応ですね。
- 4 枚目がツインタワーとともに。日本と韓国の建築会社が一棟ずつ建てたとか。

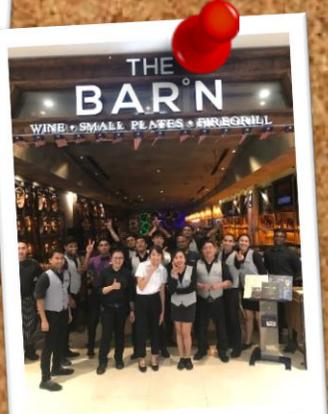
KAさん

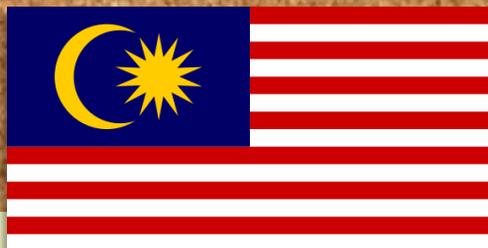




僕はマレーシア留学に、2週間の語学研修と2週間のインターンシップの計4週間、行きました。県外の他大学の学生も想像していたよりも多く、計10人ちょっといました。初日と2日目は日本人同士で固まって行動しの屋台を散策するという日々を送っていました。それで分かったことは、1人で行動したほうがコミュニケーションはつくし、いろんな場所を知ることが出来ると思えました。みんなで固まって行動すると、間違っただすし、たとえ文法が違っていても通じたことで自信につながります。実際に僕が経験してそうだったように。だから僕はマレーシアでは1人で屋台に行つてビールを飲んでいました。すごく楽しかったです。語学研修は、9; 30am~4: 00 p mの時間に行われて基本的にアクティブラーニングでした。授業ではミッションが与えられて、それは人に尋ねないと解けないものばかりなのです。ですから実際に教室を離れて、ヒントをもらえそうな人に声をかけるという感じの内容がほとんどでした。自分で自ら行動しないとミッションをクリアできないのですごくアクティブになりましたし、勉強になりました。インターンシップでは、インターン先を希望できます。希望先は、学校内のオフィスやレストラン、ホテルなど様々な職種があり、その中で僕はレストランを希望してそこの2週間のインターンシップが始まりました。仕事は、ウェーター、ウェルカム、バーの3つをしました。もちろんですが、どこも英語が必須でした。僕は英語を話せる方ではないのですごく苦労しましたが、暖かいスタッフに助けをもらいながら楽しい日々を送ることができました。ちなみに僕のインターンは、8時間労働1時間休憩でしたが、美味しい「まかない」が、出勤時とお昼過ぎに2回ついていました。毎日大変でしたが、そのぶん日本に戻つてアルバイトがすごく楽に感じました。インターンシップ前に2日間のお休みがあったので、ペナン島というきれいな島に友だちと1泊2日で旅行に行きました。シャトルバスやホテルは自分たちで取りました。(語学研修の先生も相談のつていただきました。) 全体的にタイトなスケジュールでしたが充実した日々を送ることができましたプログラム参加の前後を含め、係わつたすべての人に感謝します。本当にありがとうございました。

RYさん





私は、8月18日から9月18日までの約1か月間、マレーシアに短期留学をした。いくつかある留学プログラムの中でマレーシアに留学を決めた理由は、比較的留学費用が安く、夏休み期間中に実施されることに加え、2週間のインターンシップを経験できることに魅力を感じたからである。

マレーシアに行く事前準備として、現地の人に自分を知ってもらうための簡単な履歴書を作成した。また、現地の人とラインのビデオ通話を利用して、インターンシップの派遣先の打ち合わせをした。

私たちは、格安航空機の上海航空を利用した。長崎空港から上海はほんの数時間で到着するのだが、マレーシア行きの飛行機までの待ち時間が長く、上海で5時間ほど時間を潰さなくてはならなかった。頂いたミールクーポンで食事をしたりした。

ウエスレヤン大学6名のほかに、東京や京都、山口からの大学生も参加しており、総勢20名であった。マレーシアでの前半の2週間はベルジャヤ大学で、英語の勉強をした。テスト結果でクラスを二つに分けての少人数制の授業で発言がしやすいとても有意義な時間を過ごせた。

ベルジャヤ大学は毎週月曜日はフォーマルな格好するように指定しており、これに従い、私たち日本人も毎週月曜日はリクルートスーツで授業を受けた。

授業内容としては、座学の他に、大学内の教員や生徒に英語でインタビューをしたり、実際に外に出て、クイズラリーのような感じで与えられた課題をこなすものもあった。

後半の2週間はインターンシップをした。私は、Pooi Leng Kindergarten（プーイレン幼稚園）でインターンシップをした。基本的な勤務時間は午前8時から午後3時までで、子供たちと遊んだり、先生の補助をした。幼稚園までは、ホテルから徒歩10分で行くことができる。最初は10分前に幼稚園に着くようにしていたが、先生から来るのが早すぎると言われたため、8時ぎりぎりに着くようにホテルを出るようにした。マレーシアは日本のように早めに行動をするという習慣がなく、待ち合わせをする場合でも、かなり遅れていくほど時間にルーズな国であることがわかった。プーイレン幼稚園は先生も子供も中国系のマレーシア人が多くを始めており、子供たちは、マレー語と英語、さらに中国語の3か国語を学ぶ。私は、5・6歳児の子供のお世話を担当した。仕事内容としては、子供たちのトイレに付き添い、おやつや昼食の準備、おもちゃと一緒に遊ぶ、デイケアのお風呂のお世話などがあつた。

マレーシアの幼稚園の先生は教育のために子供を強く叩き、大声で叱ることにとっても驚いた。日本では絶対にありえないことだ。子供たちは時々先生におびえているようだった。しかし、これはマレーシア式の教育であつて、私たちにはとても優しく、マレーシアの料理を食べさせてくれたり、とても良くしてくれた。ある日には、パワーポイントを使って子供たちや先生に日本を紹介し、子供たちに日本の折り紙をプレゼントした。インターンシップ最終日には、幼稚園の先生が町を案内しながら、中国系マレーシアンの料理を紹介してくれた。

マレーシアの料理はスパイスを多く使っており、辛い料理がほとんどだった。日本旅行者が多いということもあり、CoCo壱番屋や栄寿司などの本料理店もいくつかあつた。

基本的には土曜日と日曜日が休みだったので、ショッピングモールを散策したり、電車を使って遠出したりして、休日を有効活用した。マレーシアの電車は日本のような切符制ではなく、プラスチックのコイン制だった。

観光客に人気なのが2週間程で消える「ヘナタトゥー」で、私も無料でしてもらつた。ウエスレヤン大学の留学生もヘナタトゥーをしている人を見かける。マレーシアの街は夜は危険な所も多いようだ。また、路上で寝泊まりをしている人を多く見た。

マレーシアの大学での勉強やインターンシップは、とてもいい経験になった。

教育の仕方や文化など日本との違いをたくさん知ることができた。町の人々は友好的で、困っている私達を助けてくれた。これは日本と共通することだと思う。私は、マレーシアで知り合った人と今も連絡を取ることができている。英語圏の人と連絡を取ることによって自身の英語力を上げることができるのではないかと考えている。またマレーシアはとても素晴らしい国なので、今度は観光客として再び行きたい。

マレーシアの留学に終わらず、ほかの国への留学も視野に入れて、自分の経験値が上がると良いなと感じた。

HNさん



大学1年生の夏(8/19~9/19)、マレーシアにある姉妹大学で1ヶ月の留学をしました。最初の2週間は大学で語学研修、後半の2週間は各企業でインターンシップでした。

この報告ではベルジャヤ大学での授業、休日の過ごし方、インターンシップ先での職業体験を紹介します。

### 語学研修

マレーシアに着き、はじめの2週間は語学研修(英語)を受けました。授業は、英語力により2クラスに分かれていました。1日の前半は文法や発音などの基礎知識を学び、後半は電話応答の仕方や質疑応答などの方法を学びました。

授業では、先生と一緒に街中やショッピングセンターに出て、英語を実践的に学び使用する機会がありました。学外では各グループに問題が書かれた紙が配られて、道行く人に自分から質問をして答えを聞かないといけませんでした。

このように日本ではなかなかできない授業がたくさんあったのでとてもいい経験になりました。街中に出て先生の助けがない中で自分から質問をするので、自分の英語が伝わった時はとても嬉しかったし、英語で話す度胸・自信ができました。

### インターンシップ

後半の2週間はインターンシップに参加しました。インターンシップ先は学生が希望を出し、面接が行われ、最終的に派遣先が決定されました。私は3人で「ブイレング幼稚園」に行ってきました。この幼稚園は、中国系マレーシア人が多い幼稚園で先生たちも中国人の先生が多かったです。そこでの仕事は子供たちと遊んだり課題の手伝いをしたり先生たちの補助

一番驚いたことは、先生たちがすぐ怒ることです。日本のように何が間違っていたのかを教えるのではなく、とりあえずい経験になりました。

### 休日・放課後

私たちが通っていた大学はホテルとショッピングセンター、さらにはテーマパークまでもが併設されていました。

そのため放課後は大学に併設するショッピングセンターで買い物をしたり、夕食をとったりしました。また、ホテルを出ると近くにパヴィリオンという別のショッピングセンターや、伊勢丹などの日本のデパートもありました。

マレーシアでは屋台がとて多く540円ほどでお腹いっぱい食べることができました。マレーシア(クアラルンプール)はモノレールが発達していたので休日はモノレールに乗って少し遠出もしました。お土産がたくさん売っているセントラルマーケットやイオンモールに行きました。

また連休があったので、隣国のシンガポールまでバスで遊びに行きました。バス5時間ほどで着き、往復7000円ほどで行けるのでとても気軽に、色々な経験ができました。

体験を終えて、私が実感し皆さんに伝えたいことは、「やりたいと思ったらすぐ行動する」ということです。大学生のうちしか経験できないこともたくさんあると思います。

海外研修も来年行こうと思っているうちに、4年生になって行けなくなる人が多くだと思います。そうならないように、やりたいと思ったらすぐ行動に移すことをお勧めします。

KHさん

I am studying Economics and Policy at Nagasaki Wesleyan University. My dream is to be a teacher, and has been since I was in junior high school. I enjoy helping my friends study, and I like children. Thus, I want to become a teacher. However, I realize I need experience to become a successful teacher. I took this program because it was comprised of an internship focused on English study. Although the program was short (one month), I felt it would give me valuable experience when I become a teacher.

I now have a part-time job in a Japanese hotel, where my responsibilities include making drinks, serving food and other tasks associated with wedding ceremonies. I look upon this job as an opportunity to improve myself by using my English abilities while serving other people. I also wanted to observe the differences between serving people in Japan and Malaysia. In particular, Nagasaki is a popular tourist destination for many foreigners, and I want to provide excellent service to these guests. In this way, I will be able to compare the differences in service culture between Malaysia and Japan.

Last year I worked for 2 weeks in the Furama Bukit Bintang Hotel, an elegant and modern hotel which is located in the Golden Triangle area of Kuala Lumpur. I was on an internship, and I worked in one of the hotel restaurants. I wanted to learn how to serve guests in English and experience life in a foreign country. Furama hotels have a philosophy composed of 5 parts- teamwork, hospitality, respect, trust and integrity. Teamwork is to work together as a team toward a common objective. Hospitality is a commitment to delighting our guests with their hotel experience, Respect is to recognize everyone as an individual and to treat others fairly and sincerely. Trust is to have faith in others through effective communication. Integrity is to be honest and morally upright.

Furama hotels also have "6 steps of service". They are friendly smiles and warm greetings, use the magic words "please", "thank you", and "You're welcome", remember guests names, anticipate guests needs, maintain eye contact, and always bid a fond farewell to guests.

Furama hotels vision is to be a hotel group that staff, guests, owners and the community can take pride in. They hope to do this by humbly providing excellent service to all.

This type of philosophy and vision are not unusual, however Japanese hotels seem to forget these important concepts. This may be due to differences in Japanese and Malaysian culture. The problem may be that Japanese rarely express their feelings in words, unlike the Malaysians, Indians and other nationalities I worked with.

When I began working at the Furama hotel I was a bit nervous in my new surroundings, and I was surprised at the harshness of the work. However I talked a lot with other employees, and took pride in my work, never forgetting to smile even when we were very busy. I came to know the feeling of working hard, and it was a great experience. I was able to grow as a person by getting to know other nationalities and guests and using English in my work. I want to keep such feelings alive in my future work.

TEさん

8月18日から私はマレーシアにあるベルジャヤ大学へ行き、2週間を学校での授業、2週間をインターンシップといった形で過ごし、計1カ月間短期留学しました。私にとっては、初めての海外で英語がきちんと喋れるか、インターンシップでは英語を聞き取って仕事を進めることができるのか、など数多くの不安がありました。

そのような不安の中でベルジャヤ大学での授業が始まりました。授業では主にアクティブラーニング形式の授業で、調べたことを模造紙に書いて発表するといったことをしました。アクティブラーニングでは、リトルインディアに行き英語を使って地元の人に話しかけ、インド系の文化を聞いて回りました。マレーシアには様々な人種の人が出て、地元の人々の暮らしを知る事ができました。そういった授業の中でマレーシアの多様な文化に触れることができ、伝統的な食べ物、習慣を学びました。

マレーシアの伝統はマレー系、中華系、インド系のものから大きく構成されていてお互いに影響をうけ暮らしているのだなと思った。学校の授業が終わると私はよく外に出歩いていました。

大きく文化が違うなと感じたのは道路の渡り方です。マレーシアには赤信号で渡る人が多く、渡るタイミングがなかなかつかめず最初は困感しました。押しボタン式の信号が壊れているところもありました。現地の人を見ているうちに渡っていい時とダメな時がわかるようになりました。最終的には何も考えずに渡ることができるようになり、この時、郷に入れば郷に従えというのはこういうことなんだなと思いました。他にも大きく驚いたことは、大きく発展しているところ、していないところの差が激しいと感じたところです。クアラルンプール内を歩いているだけでもそれが感じられ、清潔な所は綺麗なのだが、荒れているところは入るのが怖いくらい程だった。物乞いをしている人もおり、日本ではあまり見かけない貴重な体験だと思いました。

## 2週間のインターンシップと観光をしてみて感じたこと

私はベルジャヤ大学のオフィスワーカーとして働かせてもらいました。資料の整理、書類のコピー、ファイリングなどをさせていただきました。

日本のような切羽詰まった残業がなく、定時になると皆仕事を終え、足早に帰ります。私はそれを知らず、やっていた仕事が最後まで終わっていなかったため「残ってもいいですか?」と尋ねると「鍵が閉められないから帰ろう」と困らせてしまいました。日本では残業問題がありますが、海外では当たり前ではないのだと思いました。そのような部分にも文化の違いを感じることができました。

また、マレーシアのスーパーで、床掃除をした後の床を従業員さんがスケートのように滑っていたのを見て、日本のスーパーだと不快な気持ちになり、問題になると思うけど、マレーシアという国の人柄であるマイペースな一面が見え、逆に楽しそうに働いている姿は、今の日本に欠けているところではないかと思いました。文化の違いは、留学でしか学ぶことができないと感じました。

留学を経験し、英語が苦手でも留学に参加することはとても良いことだと思いました。分からないなりに、現地の人と関わることで、コミュニケーション能力や、困った時に相手のコミュニケーション能力も借りつつ困難を乗り越え、判断力など、自分自身の人間力が上がった気がしたからです。

また、一番変わったと思ったのは、日本についての考え方が一番変わったのではないかと思います。私はあんまり日本に興味を持っていなかったのですが、海外の文化を知ったり、マレーシアに住んでいる人と関わりながら観光しているうちに、初めて日本のすごさを身近に痛感しました。知らないところでいろんな貢献を日本がしていることを知ると、私も協力できる人間になりたいと感じました。

## マレーシアで楽しみにしていたこと

マレーシア留学を選んだ理由の1つに、日本に市販されていないフルーツを食べるという目的もありました。ランブータン、ドゥク、ドリアン、ジャックフルーツ、ウォーターアップルなどなど日本で見かけることが少ないものをたくさん買って食べることができました。この中で私が一番おすすめなのがランブータンでした。見た目が独特でしたが、ライチを濃くたような味で、食文化を知ることも留学の魅力ポイントの一つだと思います。留学をする上でやりたいと思うものを見つけることは現地のことを知るうえで大事だと思いました。

最後に私が一ヶ月間マレーシアに留学して思ったことは、移住したいと思うほどマレーシアの人々はおおらかな国民性で魅力的だと感じました。

今回、の留学は日本にはない刺激的で有意義な一ヶ月間だったと思います。日本にいるだけでは見つからないものがたくさんあると思います。皆さんも留学プログラムに積極的に参加してはどうでしょうか?

MSさん



私は、英語がとても苦手でした。だからこそ、何とか人並みの英語力を身につけたいと思ったことが今回の留学に参加した大きな理由です。実際、英語を話すことが殆どできなかったため、最初の数日で、早く日本に帰りたと思いました。

最初の2週間は、月曜日から金曜日まで、全て英語の授業でした。わからないところも、英語で説明をされるので、より混迷を極めました。

しかし、日本の授業と違うところは、グループワークが多くあったことです。先生から質問され一人の生徒が答えるというのではなく、グループのメンバーと話しあってグループとしての答えを出すので、わからないことや、他の人が何を考えているのかを知ることができました。共同して学びを進めていくところが、日本の教育よりも一歩先を行っているところであると感じました。

国づくりは、人づくりである、ということを感じました。また、課外活動もしました。モノレールに乗って学外でグループワークをすることは、日本では殆どありません。洋服を売っている人に答えを聞いたりしましたが、親切な人が多かったです。2週間の英語の授業を受けて、最初と比べて先生の指示がわかるようになっていたので、成長したと思いました。

残りの2週間はインターンシップでした。私は、ベルジャヤ大学のオフィスでした。主な業務は、プリント整理や、プリントの書き直しなどで、大学の寮のメンテナンスを手伝ったりもしました。最初はとても緊張しましたが、とても優しい職員さんばかりでした。ミスもしましたが、一度も怒られませんでした。

お昼御飯もほとんど一緒に食べました。様々な料理を食べることができ、感謝しています。また、その時に英語で会話をしましたが2週間が終わる頃には、問題なく会話ができていたと思います。2週間の英語の授業は、大変でしたが、2週間のインターンシップはとても楽しかったです。

ベルジャヤ大学に留学をしている日本人の方も仲良くなることができて、ご飯と一緒にいたりしました。二人とも英語が上手で、もっと勉強しないといけないと思いました。また大切なことは、伝えようとする、とにかく話してみること大事だと思います。そういう意味では、単語力が最後は英語力を決めると感じました。



留学をする意味は何か、様々な理由があると思います。語学力を高めること、その国の文化を体感し、母国との違いを知るなどがその大きな理由になると思います。英語を話せるようになりたいだけであれば、日本国内でもできます。そういうことから、留学をする本当の意味は、その国の文化を知り、日本という国を外から客観的に見ること、このことが一番大きいと思います。

マレーシアは主に3つの人種に分けられており、それぞれ、マレー系、中華系、インド系に分けられます、言語も今までは、マレーシア語と英語だけであると思っていましたが、実際は同じ人種同士であると、それぞれの言語で話します。

従って、職場の中でも言語が多様です。いきなり英語ではなくなるので、今まで何となくわかっていた会話が急にわからなくなり、焦ることもありました。マレーシアでは3つの人種があるからこそ、英語という共通言語を話すことによってお互いの意思疎通を図っており、英語の重要性を認識しました。これは、日本では体験することができないことです。

YAさん

また、1か月間をほかの大学生の人たちと過ごすことができたことも自分自身のプラスになったと思っています。自分と興味がある分野や、夢・目標が違っても、それぞれのこと話をすることは刺激になりました。出身や、大学の専攻が違えば、人生観や価値観も違うことは当然ですが、違うなりにも言葉にして話してみることは大切だと思います。複数で他大学の学生さんと、一つの部屋で1か月を過ごすことに、思わぬメリットがありました。

また、日本と違ってマレーシアは発展途上国ということもあり、とても景気がいいということを感じました。私たちは、失われた10年20年と言われていた時代に生まれたこともあり、自分は本当の意味で景気がよいということがどういうことかわかりません。海外と比較検討することで、日本の高度経済成長期というのは、凄いい勢いで国が発展していったのだろうと予想ができました。



しかし一方で、街中にはお金がなく通行人に対して、物乞いをする人が想像以上に多く、驚きました。中には、生後数週間と思われるような赤ちゃんを抱きかかえた親子がおり、その光景はいまだに忘れることができません。

生まれる国や、地域によってその人の人生が大きく変わるといふ現実を目の当たりにしました。今、私たちは、不自由なく生活することができていますが、一方で明日の命が危ぶまれるような人がいることを忘れてはいけないと思います。発展という名のもとに切り捨てられる命があつてはいけないと思いますが、現実にあるということを知ることが必要があると思います。

発展によって豊かになり、楽しくショッピングをする人。貧しさから抜けることができない人。双方の姿を見ることができたことから、発展とは何か考えさせられました。建設中のホテルやおオフィスビルも多く、1か月間でも建設が進んでいることがはっきりとわかりました。

マレーシア料理は、最初は口に合いませんでしたが、1か月もいると問題なく食べることができるようになりました。全体的に少し辛いですが、日本の辛いと海外の辛いは少し違うように感じました。外食をすることが多かったですが、物価も日本の3分の1であり、ほかの国の料理も食べることができました。

アロー通りという屋台街にも行きましたが、とても大量の人で賑わっていました。これから、発展していくなかでも消えてほしくない光景だと思いました。勉強以外の時間は、滞在しているホテルを出ることが多かったです。近くにはツインタワーなどの人気の観光スポットもあり行きました。夜に行きましたが、多くの観光客がおり写真を撮るのも簡単ではありませんでした。また、バトゥ洞窟という有名なヒンドゥー教の洞窟にも行きました。あんなに大きな洞窟に入ったことは今までなく、また、猿がたくさんいたことが記憶に残っています。

シンガポールにも日帰りで行きましたが、マレーシアとは全く町並みが違いました。発展し終えて安定しているといった感じでした。マライオンなど日本人の間でも有名な観光スポットには、多くの日本人がおり、あちこちから日本語が聞こえました。道路を走っている車は、マレーシアと比べて日本車が多かったと思います。また、金融都市といわれるだけあって、連国籍の銀行のオフィスビルが建っていました。

留学をすることで得られることは、言語力以外にもたくさんあります。また、様々な出会いもありとても充実していたと思います。私は日記を毎日書いていましたが、日記を書いて、その日にあった客観的な事実から、気づき、思ったことをすべて書くことは、後から見直した時に、心境の変化などが確認できるのでよかったです。貴重な経験になったと思っています。

**Shandong**  
**Foreign Languages**  
**College**





こんにちは！3月から7月まで、9月から12月までの計8ヶ月間中国山東省にある山東外国語職業学院に留学してきました。私が留学で体験したことを紹介しようと思います。

#### 留学を通して感じたこと：

長期の留学を通して一番感じたことは気候についてです。私が住んでいた日照市は海の近くにあり、私たちの学校は山の下に位置し、本当に風が強かったです。突然台風並みの風が吹いてくる日がよくありました。また梅雨という時期はなく雨は基本的に降らない地域なのですが突然嵐のような天気になることもありました。四季を感じる事がなく、急に暑くなったり寒くなったりで気候の変化に対応できず、体調を崩すこともしばしばありました。中国は広く地域ごとに異なった気候を感じることができると思います。私は気候のことなど一切考えずに留学に行きました。今回は雨も少なくとても過ごしやすい地域に留学に行くことができ良かったと思いました。これから旅行などに行く際は、まず気候について調べることが大切だと感じました

#### 成長したこと：

中国語のレベルは確実に成長したと思います。今まで日本で勉強していた時、中国語を実践的に話す機会がなく、中国語を話すことが苦手でした。しかし中国で生活する以上、絶対に中国語を話さなければコミュニケーションをとることができない。この環境は自然と勉強への意識を高めさせてくれたと思います。中国に来たばかりの頃、やはり怖いと感じることが多く人に頼っていることが多かったです。比べて後期は、自分から積極的に何事にも挑戦していました。この留学を通して気持ち的にも一回り大きくなった気がします。

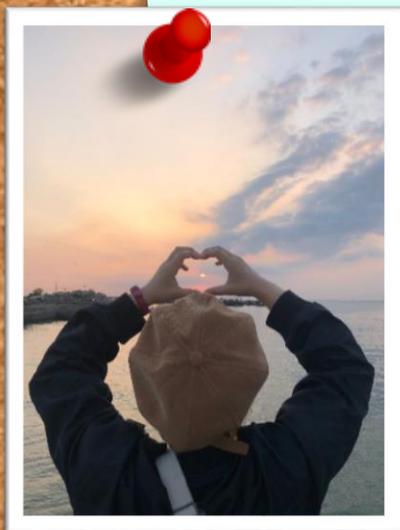
#### 楽しかったこと：

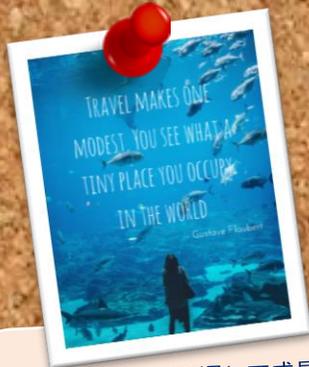
私の留学生活毎日が新しい発見であふれていて、本当に充実していました。前期は韓国人のルームメイトとずっと一緒に勉強したり遊んだりはやいんだり、とにかく毎日たわいのない日々が楽しくて仕方なかったです。後期はクラブ活動をはじめ、毎晩練習に励んでいました。クラブ活動を通してたくさん友達ができたり、活動外で遊んだりとやはり楽しい思い出ばかりです。

#### 最後に：

留学は大学入学前からの夢でした。その夢がかなってたくさん学んで帰ってくることで、本当に嬉しいです。留学が終わり新たなスタートを切るときがきました。留学を通して学んだことと成長したことを生かしてこれから将来に向けて頑張っていこうと思います。そして成長した姿でまた中国に遊びに行きたいと思っています。

STさん





私がこの留学を通して成長したと感ずることは、今まで長崎という狭いコミュニティの中でしか生活したことのない私が国境を越え、中国という言葉も文化も習慣も全く異なる地へ単身赴いたことで様々な見聞が広がったことであると思う。またこの一年間の留学それ自体が大きな挑戦であると思う。

私は中国へ来るまでは中国語をまともに勉強したことがなく、また特に中国に興味や関心があったわけではないのでこちらに来るまでは様々な不安や、できれば行きたくないという気持ちもあったが、留学生活が始まって少し経つとそういった気持ちのほとんどは無くなってしまった。

なぜならこちらでは良い友達、クラスメイト、教師や事務員の方々が唯一の日本人留学生の私を気かけ、いつでも優しく見守って日本人の私に合わせてくれようとしていてくれたからだ。もちろん私も慣れないながらも中国の習慣に溶け込もうと努力した。

また9月から始まった新しい学期では日本語教師免許を持っていない私に、中国人学生に対して日本語を教えることができる機会すらも設けてくださった。また、中国人はもちろん、韓国人、ロシア人の留学生、アメリカ人、スペイン人、エジプト人などの外国人教師といった東西南北多種多様な人種の人々がこの学校の中で生活しており、その交流の場も多く様々な文化や言語を自分で実際に見聞きすることができる。

そして何より異なる国の異なる生活習慣をもつ我々が文化的な活動の中で同じ価値観を共有し、共に分かち合っているという感覚がこの山東外国語職業学院の最も大きな醍醐味であると感じる。日本国内で普通の大学生活にないような経験が、いともたやすく経験できることがこの留学の最大の魅力であると思う。この学期、新しい韓国人のルームメイトが出来た。とても流暢な中国語を話すことができる。今挑戦しているのは、彼と中国語を用いて会話を行うことである。前学期までは日本語を話せる学生とよく交流していたが、今期はそういった学生も含めほぼ日本語が話せない学生たちともよく交流するよう努めている。また、日本語や日本についての質問をよく投げかけられるようになり、その返答にもできるだけ中国語を用いるようにしている。

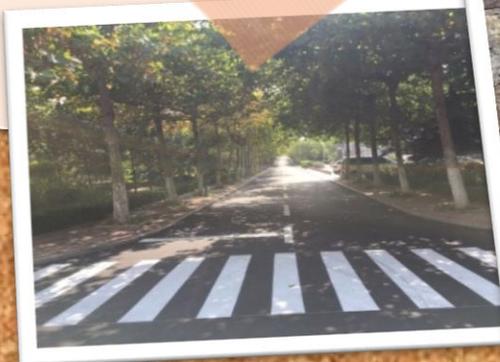
しかし実のところをいうと一年間の留学期間では現在のように中国語が話せるようになるとは思っていなかった。英語は中高六年間も勉強したのに全くと言っていいほど話せないからである。しかし一年間の国にいるだけでこんなにも結果が違ふということに驚きを隠せない。もしこれから留学をしたいと考えている学生がいるとしたら迷わずに挑戦してほしいと思う。

留学を通して学ぶことができることは語学や文化だけではない。これまで他人とコミュニケーションをとったり、積極的に様々な活動に参加したりすることのなかった私が人間としてここまで進歩できたと感じられるのはこの留学のお陰としか言いようがない。自分の力だけでここまで来れたということでもないということもポイントだ。

多くの人に支えてもらって初めてやっと一歩成長できるものだとこの留学が気づかせてくれた。誰しも一人で生きていけないとはよく耳にするがそれを自分の身を以て初めて体験できたと思う。そしてもちろん、この経験を帰国した後の日常生活にも活かすことができるうえに、中国語も将来何かの役に立てることができるとも思えない。

この留学で私が得たものは計り知れない。この感覚を後輩達にも味わってもらいたいと願ってやまない。

AMさん



# Tianjin Polytechnic University



私は9月の12日から二週間、中国の天津工業大学への短期留学プログラムに参加しました。テレビでしか見たことのない中国という国を実際に見てみたいと思ったのがきっかけです。二週間という短い期間でしたが本当に濃く、充実した生活を送ることが出来たと思います。

大きなワクワクと少々不安を胸に抱きながら福岡空港を飛び立ち、深夜に上海で乗り継ぎをし、天津に降り立ちました。私はあまりホームシックになるタイプではないのですが、上海空港での乗り継ぎの際に空港スタッフの温かみを感じられない接し方に心が折れそうになりました。そしてホテルに到着し、一瞬の眠りから目を覚ませばすぐに授業の始まりでした。平日は基本的に中国語の授業でした。その中で日常会話に必要な単語や中国の文化についての中国語をたくさん学びました。そしてその文化を実際に体験する授業もありました。書道や水墨画、餃子づくりにお面づくり、ラッキーチャームづくりをしました。それらを教えてくださる先生は綺麗なお姉さんばかりでみんな土気が高まったと思います。しかしこれらの授業は全て中国語で進められていき、パワーポイントや写真を見なければ何について話しているのかほとんど分かりませんでした。分からないところを英語でカバーしてくださる先生だったり、中国語がわかる学生が通訳をしてくれて本当に助けられたと感じたと共に自分の勉強の足りなさをとても悔やみました。しかし何日が経つと意識が変わり、ここで吸収していけばいいんだと思えるようになり、それからは積極的にわからない点は訊ねて解決していくようになり、「理解できた」という気持ちから楽しめることが増えました。実際に生きている中国語を様々な文化とともに学べたことは本当に貴重な経験になりました。

休日は市街地に足を運び、ショッピングをしたり食べ歩きをしました。大学から最寄りの駅まで歩き、地下鉄に乗って揺られること20分弱で若者や観光客があつまる市街地に到着し、大きなデパートやショッピングモールが並ぶ通りを歩いて回りました。私が一番心躍ったのは街中にマンゴー味のデザートが豊富だったことです。某有名フライドチキンのお店のマンゴーソフトクリームが美味しすぎて中国滞在中何度も食べてしまいました。街に出てからファストフードのお店に入ることがよくあったのですが、日本とは違うメニューも数多くあり、その食べ比べもいい思い出のひとつです。

他にも文化街と呼ばれる情緒あふれる場所に行き伝統工芸などを見て回ったりしました。そこで出されていた屋台の料理がどれも安くて美味しかったです。ただ、臭豆腐という文字を見かけたらその名の通りの臭いがあるのでちょっと気を付けたほうがいいです。観光した中でいちばんの目玉が万里の長城を歩いたことです。バスに長時間揺られて麓までいき、一時間ちょっとの時間でしたが想像以上の角度に息を切らしながら登ったのも万里の長城を作った人たちの苦勞や偉大さを感じるいい機会となりました。

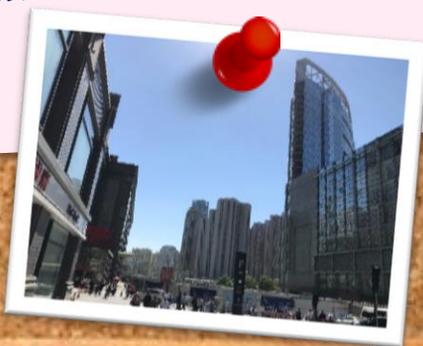
天津観光にも行ったのですが都会だと感じる場所があったり、少し移動すれば全く違う景観になることが多く、さらに建設途中の高層ビルが多く立ち並んでいる風景を見ると「高度成長」といわれるのが分かった気がしたし、また置いて行かれてしまっている人たちも多く存在しているという現実も知ることが出来ました。そして何より街に出て感じたことは自分が思っていたのとは大きく違ったということです。私は中国に行く前は街散策なんて女子だけでは絶対無理だと思っていました。しかし実際に足を運んでみると抱いていた不安は必要なかったと感じたのです。これは実際に行ってみないと知ることが、感じる事が出来なかったことだと思います。

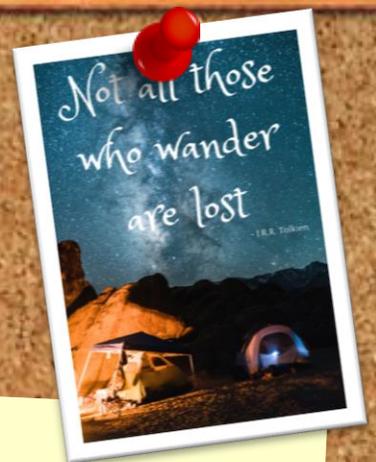
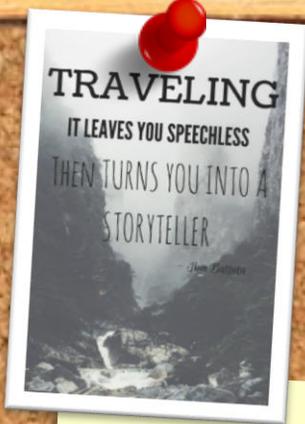
そして何より私自身の関心が高かった中国での食生活について書こうと思います。学校がある日は基本的に学内の食堂かスーパーマーケットで購入し済ませていたのですが、三階建ての食堂が三つくらいあったので飽きることはありませんでした。それに味付けがすべて体験したことのない新鮮なものばかりでその中で「美味しい！」と思えるものを探すのも楽しみのひとつでした。スーパーマーケットにも数多くのパンやカップラーメンが安く売られていたので食堂の料理ほどの量が食べきれないと思った時や朝ごはんにはよく利用しました。大学内の食堂で一番好きだったのがマントウという饅頭のようなものです。濃い味付けの料理が多く、私自身がそういう素朴な生地が好きということもありよく買って食べていました。こぶし一つ分くらいの大きさに5角(約8~9円)という驚異の安さだったのも推しの理由のひとつです。そしてこのマントウは裂けるチーズならぬ「裂ける饅頭」といえるほど割ってみると繊維のようになるので不思議な感じがして楽しかったです。

そして大学内に限らず、一步外に出ると美味しいごはん屋さんがあったり、激安ソフトクリーム屋さんがあり、授業が終わって外の街に繰り出すのもちょっとしたドキドキと空腹を満たせる喜びで、楽しい記憶しかありません。大学を出てすぐのところにあつた激安ソフトクリーム屋さんはなんと2元(約34円)という驚異の値段でソフトクリームを販売していて夏に行っていたら常連化していたのではないかと思います。そして皆さんにぜひ紹介したいのが北京ダックです、本当に美味しいすぎて忘れられないというのはこういうことなんだと思つた食べ物です。中国に行ったらぜひ本場の北京ダックを食べてみてください。ただし、たとえお腹がいっぱいになつてもお箸が止まらないので注意が必要です。

これらの様々な体験を通して二週間という短い期間の中で本当に多くのことを学ばせてもらったと共に、自分自身の中国に対するイメージ、捉え方の変化はこれからの私にとってとてもプラスになると思うし、実際に体験しない自分自身に言い聞かせることがあったことと実感したことが今回のこの留学での大きな学びだと思います。そしてこれらの経験を無駄にしないように勉強を続けていこうと思いました。そして現地で授業をしてくださった先生方や優しくしてくださった食堂のおばちゃん、行かせてくれた家族、連れて行ってくださった胡先生への感謝も忘れないようにしていきたいです。行き逃した場所があるのでその悔いを晴らすためにもまた機会があれば行きたいです。

SDさん



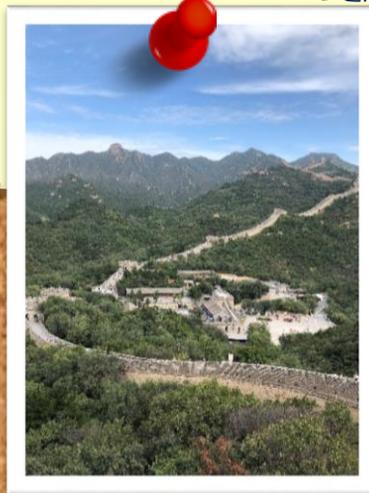


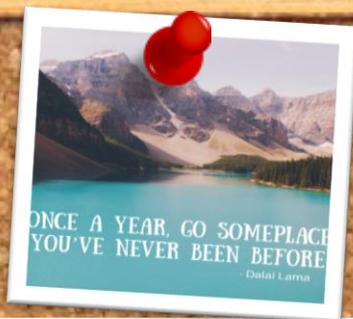
私は夏休みに中国の天津工業大学に短期留学に行きました。海外に行くのは今回が初めてでした。そのため、留学前は本当に2週間も中国で生活できるかどうかと不安な気持ちの方が大きかったです。しかし実際に行ってみると不安に感じることは何一つありませんでした。中国での生活は平日の午前中国語の授業、午後と土曜日は文化体験でした。中国語の授業ではほとんどが中国語での説明で、少し英語での説明があったくらいだったので、正直なところ中国語も英語もあまり分からない私にとっては何を言っているのか分かりませんでした。文化体験では切り絵や餃子作りなどをしました。どの体験もとても楽しかったです。

今回の留学では万里の長城の長城に行ったり、遊園地に行ったりとたくさんのことがありましたが、私が一番印象に残っていることは現地の大学生と一緒に野球をしたことです。中国に行く前はまさか野球をすることは全く想像していませんでしたが、縁もあり一緒に野球をすることができました。始めボールを使っていたのでそこには驚きました。また、野球をするという案内された所がテニスコートのような場所だったことにも驚きました。実際に野球をするとキャッチボールしたり、私がピッチャーをしていたということを伝えていたのでピッチングをしたり、それぞれ自分がしたいポジションに分かれての守備をしたりと様々なことができました。野球が終わると現地の大学生と野球の話をしたり、お互い日本のことや中国のことについて話をしたりしました。また、その日は一緒に夕食も食べに行きました。私が好きな野球を通して、たくさんの人と交流することができ、つながりを持つことができたことは本当に良かったです。

初めて海外に行って、驚くことの方が多かったですが、様々なことを学ぶことができたと思います。中国語や文化についても学ぶことはできましたが、いろいろな人と関わることの大切さも学ぶことができました。今まで、外国人とあまり関わるのが無かった私にとって、今回の留学はとてもいい経験になりました。いろいろな人と関わることで自分にはない考えを知ることができ、様々な視点から物事を考えることができると思います。この経験を今後の日常生活に活かしていきたいです。また、今回は中国語がほとんど分からない状態だったので、中国語で会話をする事ができませんでした。そのため、中国語で会話ができるようになるため勉強をがんばろうと思います。そしてまた機会があれば中国に行きたいです。

KNさん





#### 短期留学に参加した理由：

私には、これまで海外へ行ったことがなかったため単純に、日本を出てどこでもいいので海外に行ってみたくてという気持ちはあった。そして、学生の今でしかできないような体験をしてみたいと考えていた。その状況で友人にこの短期留学に誘われたのだ。ただ、私はこの大学で約一年半中国語の講義を受けていたが、とても身についたとは言えないものだったので、言語についての不安が大きかった。さらに、費用もそれなりにかかるので、最初友人に声をかけられた留学をするつもりはなかった。しかし、語学や文化は現地で学べるといふこと、中国語がわかる友人が一緒だったということ、家族からの後押しもあったことから今回の参加を決意した。

#### 語学研修・文化体験：

夕方に福岡空港を発った飛行機が中国へ到着したのは夜だった。その数時間後から早速講義が始まった。ホテル到着は現地時間の午前3時だったため、眠い目を擦りながら受けた午前中の中国語の講義は、私たちと世代の近い若い女性の先生が教えてくれた。タッチパネルを使いながら説明をしてくれたので分かりやすく、英語訳だけではなく日本語訳をしてくれていたことには驚いた。黒板よりも見やすい、このタッチパネル式スクリーンが日本にもあれば便利だろうと感じた。

午後の文化体験は多種多様なものだった。食文化のムービーから、組み紐作りなど楽しんで学ぶことができた。組み紐と切り絵は日本でも作って楽しめるものだったので、時間があつたらやってみたくてと思った。

授業で習った言葉をそのまま生活で使用出来る環境には、学ぶ意欲が湧いた。先生と友人に教えてもらいながら、実際に食事を注文出来た時は、嬉しかった。言葉が通じない代わりに、シチュエーションやジェスチャーから大まかな内容を推測出来るようになった。言語を学ばざるを得ない環境はプレッシャーもかかるが、自分の身のためになったと思う。

#### 異文化交流：

初日から2週間、私たちと一緒に行動してくれた大学生の「咲夜」さんは独学で日本語を学んでいるらしく、私を含めた全員が彼に頼りきりで、とてもお世話になった。「咲夜」さんをはじめとして、独学で多言語を学び、日常会話ができるまでにしている中国の人たちはとても向上心が高い。スリランカの人と数人でランチに行ったときは、日本人は英語を学校で何年間も学んでいるのに、どうして話せないのかという話題にもなった。日本では英語を使う機会がほとんどないとはいえ、申し訳ないような恥ずかしいような気持ちを持った。そして私自身の他言語への興味の無さを再確認させられた。

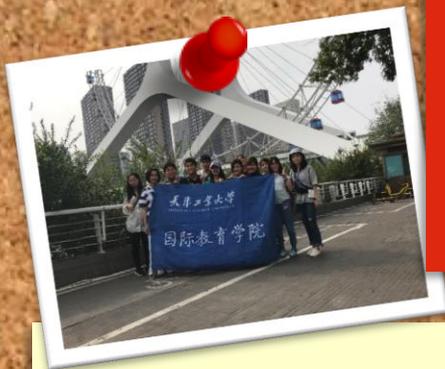
食事は全体的に味が濃く、特に学食の値段は安かった。予想していた程食べられないというわけではなかったので安心したが、学食で注文した麻婆豆腐は辛かった。日本のピリ辛な麻婆豆腐は肉や野菜が入っているのに対して、中国では豆腐と唐辛子がほとんどだった。

#### まとめ：

まったく言葉の通じない土地に行って、事前に中国語・英語の勉強をもっとやっておけばよかったと思ったことは一度や二度ではない。しかし、平日の講義が終わった後の自由時間では、夜に全員で夕食に行ったり部屋で話し込むこともあった。たった2週間という短い期間だったので、私は「せっかくだから」と普段よりも積極的に動いていたように思う。それを日本でも続けて、「せっかくの」機会を逃さないようにしていきたい。

AFさん





私は夏休みを使って9月12日から25日までの二週間、中国に短期留学をした。わたしがこのプログラムに参加しようと思ったのは、初めて行く国に行くときはやっぱり不安だ。でもこのプログラムでは、引率の先生もいて仲間も一緒にいるからこそ、自分は今はチャンスだと思いこのプログラムに参加した。

学校では、会話の授業が一番楽しかった。英語で授業を受けながら、一生懸命日本語に直して理解して、かつ中国語を覚える、両方とも母国語ではないのでとても新鮮で刺激的な授業だった。理解ができた時の達成感は何とも言えなかった。

また休みの日には、大学の野球サークルにて交友関係を築いたり、中国で一番大きいといわれる遊園地に行ったり、古文化街に行って中国の伝統的なお土産を見て買ったりと、充実した休日を送った。

古文化街で、孫悟空のような格好をした人たちに写真を撮ろう！というジェスチャーをされたので、写真を撮ってもらった。その直後お金を請求されて、驚いた。正直ともいやな手口だなと思ったが、どうやらしゃべれない人や耳の聞こえない人だったようだ。また、賑やかな町の風景の中に、物乞いをする体の不自由な方もいた。こんなにも栄えている中国でも、貧困はあるのだなと現実を知った忘れられない光景となった。

大学の野球サークルに参加したとき、驚いたのは日本語を喋れる学生が多かったことだ。その人たちに、「なぜ日本語が上手に話せるの？」と聞いたところ、二つのパターンがあった。1つ目はこの大学の“日本語学科の学生”であること。もうひとつは、独学で学んだという。中でも多かったのはなんと独学。独学で勉強をした学生は、日本のアニメや漫画をきっかけに勉強し、ほとんどの人は日常会話を難なく話せる人が多くいた。私はそれを聞いて驚いたと同時に、悔しさや虚しさ、恥ずかしさを感じた。私たちははたも中国語を話せないまま中国に留学をした。日本語がわかるからといってなんでも日本語で伝えて、通訳をしてもらいながらすごしていた。

でもこの学生たちと出会って、話せない自分が恥ずかしい、情けない、悔しいという気持ちでいっぱいになりました。また、ウエスレヤン大学の留学生はすごいと思った。みんな日常会話のある程度できるようになっている。私たちはこのままじゃ外国人に負けてしまうとも思った。

この留学を通して、私はこれからの学生生活においてこの気持ちを忘れずに、卒業するときにはマルチリンガルになれるように、すごしていきたいと思う。  
目指せ！マルチリンガル！！

KOさん





私は夏休みに2週間中国の天津師範大学に短期留学に行ってきました。私にとっての初海外。中国はテレビなどではもちろん見たことはありましたが、どんなところなのか行くまでは全然知らなかったことが分かりました。

私は高校まで留学生と接する機会が殆どありませんでした。海外には少し興味はありましたが、実際に留学など簡単にできなかった事もありそこまで考えていませんでした。長崎ウエスレヤン大学に入学して沢山の留学生とかわる機会が増えるようになり、留学生とずっと仲良くなりた、もっと喋りたい、もっと中国のことを知りたいと思うようになり、中国語を勉強するようになりました。

長崎ウエスレヤン大学の良いところの一つは、様々なところに留学できることです。また、留学生も沢山いるので語学も学ぶことができます。実際に習ったことを会話を通してさらに身に付きます。学んだことを、実際に使うことはとても大事なことで改めて思いました。

日本の文化しか知らない私にとって中国は驚きや発見の毎日でした。その中の一つが「交通」です。車の運転の荒さには驚かされました。とにかく車と自転車が多かったです。東京のスクランブル交差点のようでした。車の間を自転車が追いついていくのを見て何度もヒヤッとしました。気を付けなければいけなかった事は、横断歩道を渡ることです。日本と違い、赤信号でも右折だけはできるため、赤信号でも車は来ないと思っていると轢かれそうになります。信号機の横に待ち時間が書いてあり、中国人は待つことが嫌なのかなと思いました。またクラクションが鳴り響いていることには驚きました。日本では考えられない光景でした。

中国に来て当たり前なのですが、全てが漢字で書いてあることに感激しました。日本語が全くない環境にきて不思議な感じがし、中国に来たのだという実感がわきました。中国での生活は驚きと発見の毎日でした。

ここはなんだろう？これはどうやって使うのか？この漢字は？・・・等、知らないことばかりでした。

自分たちで調べたり、相談したり、自分たちで考えて行動することがとても楽しかったです。

平日は午前中、中国語の授業があり、午後は文化体験をしました。土日は自由行動で繁華街に行ったりしました。

留学前、現地の人と会話ができるか、買い物の際に値段を聞いたり欲しいことを中国語で話せるかが不安でした。初めは緊張して指で指したり首を振ったりして応答しました。しかしせっかく中国で中国語を使わないのはもったいないと思い、基本的な言葉を勉強して、実際に使ってみました。自分の言葉が伝わった時はとても嬉しかったです。

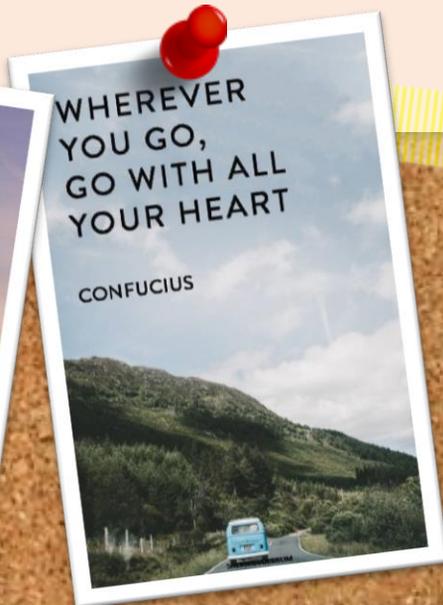
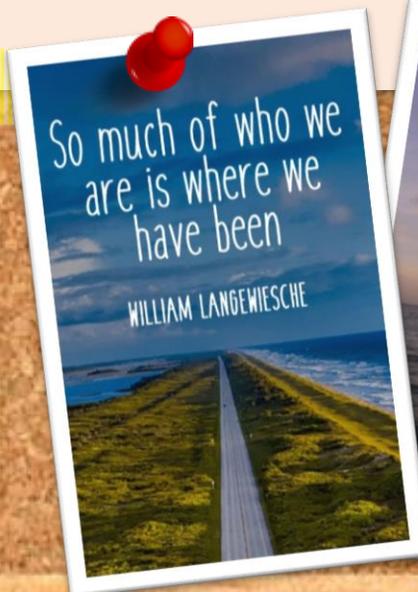
発音が難しく初めは一回で聞き取ってもらえませんが、一週間後には一回で聞き取ってもらえるようになりました。言葉が通じるともっと自分から会話をしたいと思うようになりました。また、発音が早すぎて中国語を聞き取るのも苦労しました。中国語に慣れると聞き取れる言葉が増え、値段を聞いていくらなのかを聞き取ることができるようになり、その他の言葉も少しわかるようになりました。

午後からは文化体験をしました。書道や切り絵、太極拳などを行いました。特に切り絵は中国の伝統的なものと知ることができました。観光では万里の長城や天安門広場等に行きました。教科書で見た天安門広場を実際に目で見たときは、ここがあの場所かと思いました。そのほかにもたくさん中国の文化に触れることができました。

2週間中国に行って、改めて本当に中国に行ってきたと強く感じます。異文化を知ることとはとても良いことだと改めて思いました。異文化を知ることによって日本の文化も知ることができました。それぞれの国に各文化があり、そこでしか味わえないものがあるということがわかりました。

人はいつでもどのような出会いがあるかほとんどに分からないなと思いました。その時がある日突然来るかもしれません。中国では様々な体験をし、沢山の中国の人と会うことができました。2週間の短期留学が終わり、空港で日本語のアナウンスが流れたときは、あっ、日本語だと感動しました。また機会があれば参加したいです。2週間はとても短く感じましたがとても充実した時間でした。

MKさん





07:00	朝食
08:50	授業
11:45	
12:00	昼食
13:00	観光 文化体験
15:00	
18:00~	夕食・自由時間

私は9月8日から21日まで中国研修に行ってきました。大学へ入学してから中国語を勉強し始めたので、自己紹介もろくにできないレベルで挑んだので、出発2日前までは好奇心より恐怖心が勝っていました。

中国研修初日は引率の先生がついてくれたので心配はありませんでした。しかし、次の日からは自分たちで行動しなければならなかったため、とても心配でした。二日目から授業も始まり、寮生活がスタート。休日は自分たちで好きなことをするという感じです。

まず心配したのは、食事です。二日目の朝から寮での食事でした。見た目はとても美味しそうなのですが、味はやはり日本と違いました。日に日に慣れて、だんだんと美味しくなっていました。

授業は中国語の授業です。中国語で授業が行われました。たまに、英語が入ってきましたが、日本語は一切なく、言語の壁というのが立ちました。正直に言うと、何を言っているかわからないので、授業になっていないのではと思っていました。また、授業以外にも自由行動の際も全部中国語。本当に、日本に帰りたかったです。

2日くらいたった日曜日に買い物に行くことになり、一人何か一つは買おうという目標を立てていきました。私も習った中国語やジェスチャーを必死に使い、やっとの思いで購入することができました。中国語も毎日聞いていくうちに、聞き取ることができるようになってきました。また、授業では、先生の質問に対して、中国語で答えることができていき、レストランでご飯を食べたり、コンビニやデパートなどで買い物をしたりすることが楽しくなっていました。ここで、言語を学ぶなら現地に行くのが一番身につくのが早く、効率がいいと思いました。授業のあとは、昼食をとり、中国の文化体験や観光地へ行きました。文化体験は、切り絵や書道、太極拳、地元の料理を作る体験などをしました。特に、太極

拳は難しく、また、中国といえばこれという感じだったのでとてもいい経験ができました。

観光では、天津タワーや観覧車、古文化街、郊外にある万里の長城、天津にある大学、動物園が隣接する水上公園、北京にも行き、天安門やその周辺を探索しました。

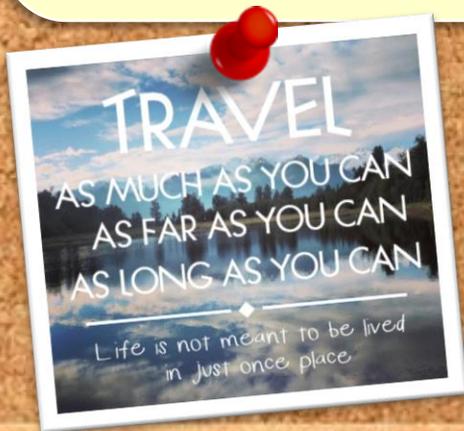
特に、天津師範大学と万里の長城の大きさには圧倒されました。天津師範大学は中国の中でも大きい大学で、端から端まで歩いたら30分かかるほどでした。ここでは、日本語学科の人たちとの交流ができ、彼らと中国と日本のことについて語り合い、その中から学ぶことがたくさんありました。

また、万里の長城は急な上り坂と下り坂が多くて、初めは笑顔だった私たちも中盤に差し掛かるころには、みんなきつそうな顔に変わっていました。私たちは下りだけでしたが、1時間以上歩いていました。私も体力には自信がりましたが、とてもきつくて、それから3日間筋肉痛が続きました。

観光地に行くのに、たくさんの交通機関を使いました。中国は交通の便がとてもよく、最近できた新幹線は時速300キロだったり、バスはどこに行くにも2元（日本円で36円）で行けたりと、とても便利でした。

このように中国のことについてたくさん勉強しましたが、自由時間があつたから最後まで楽しむことができたのかなとも思います。留学生寮の学生との交流や、一緒にいったみんなと買い物したり、中国語を勉強したり、夜遅くまで遊んだり、毎日楽しかったです。行ってみなければわからないことも多くあります。イメージと違うことがたくさんあります。中国は空気が汚いとか、食事がやばそう、危険そうと思っている人。ぜひ一度その目で見てみてください。中国語がわからない。そういう人もぜひ行ってみてください。特に中国は歴史が古いのので、いろいろ学ぶことが多いと思います。中国、おすすめ国です。

DUさん





私の夏休みは、中国の思い出で溢れています。2週間というとても短い期間でしたが、充実感で表すと1か月中国に滞在していたように感じます。私にとって3度目の中国。初めての天津。行く前からたくさんの方を期待を膨らませ中国・天津へ旅立ちました。

大連空港に降り立った時、耳に入ってくる音声が中国語であることに変な緊張感と期待感が自分の中にめぐっていたことを未だに覚えています。荷物検査で音が鳴った時は、ひとりでも焦りました。けれど、話している中国語が理解できて通過できたときはとても嬉しかったです。人の多さ、密着間、話す声の大きさ、空気の違い、公共の場で平気に喧嘩する姿など日本人にとっては驚く光景ばかり。2度中国に来たことのある私にとっては、懐かしい気分になりました。

中国での生活は毎日充実していました。平日午前中は授業。中級クラスだった私は、クラスメイトに成人の日本人の方がたくさんいました。レベルが高くてとても刺激を受けました。午後からは文化体験で書道、切り絵、太極拳、餃子づくり、市街研修にもいきました。休日は自由行動でした。高校時代研修で上海に行ったりときは一人で行動することは禁止でした。ですが今回は一人で地下鉄に乗って、一人で買い物もしました。これは自分にとって大きな自信につながりました。

今回私たちが行った天津、ここは私が思うに上海よりとても住みやすいと感じました。一人で出かけるときは基本地下鉄で移動しました。地下鉄も五分おきで来るし、案内もわかりやすくとても便利でした。私は中国のバスが好きでした。料金は先払い。初乗り運賃でどこまでもいけます。日本との大きな違いは二階建てバスが走っていることです。日本で二階建てバスを見たことがなかった私にとってはとても興味深く、二階の一番前の席に座った時の感動は忘れられません。交通の面は発達していますが、安全の面では日本と大きく違う面もありました。赤信号でも車は右折していいので、何度も車に轢かれそうになりました。日本に帰ってきて、クラクション音が全くない日本の道路は静かだと思おう半面、少し寂しく物足りないと感じる部分もありました。

私が中国・天津に行って驚いたことはいくつかあります。一つ目は中国にも東京の渋谷のような高いビルが立ち並ぶファッション街があったことです。地下鉄で移動して地上に出てきたとき中国ではないように感じました。とても楽しかったです。

二つ目に驚いたことは万里の長城の脅威です。登って降りてまた登って、どこまでも繰り返され終わりが無いのではないかと感じていました。万里の長城に登ることになり、事前に予習していなかった自分が悪いのですが想像以上のスケールの大きさに距離の長さにとだただ驚きと恐怖と疲労だけが残りました。

三つ目はパンダを見たことです。人生で初めて見るパンダを中国の天津の水上公園という場所で見ることができました。私はパンダが好きです。中国=パンダのイメージはありましたがどこにでもいるわけではなく、会えるわけがないと思っていました。実際に見たパンダは一言で表せば「かわいい」です。全く動きまわらずずっと寝ていました。今でもパンダのことを思い出すと胸が高鳴ります。水上公園という名前だけ聞いたら日本の空き地でちょっとした遊具のあるような公園を想像していましたが、実際は公園の敷地内の中に遊園地、動物園、池、植物園などがある壮大な公園でした。人生で初パンダを目にかかれたのが中国というのは自慢できることだなと感じました。

この研修で学んだこと、たくさんあります。もちろん中国語の学習の面では日本で勉強するより多く自分の身に入ることが多く、スキル的にも向上したと思います。仲間の大切さについても、改めて考えさせられました。万里の長城に行った時、下りで友達が足を怪我しました。私は友達の支えになったのですが体力的にも一人ではどうにも対処ができなかった部分がありました。周りの友達は自分たちのペースに合わせてくれて、荷物を持ってきて、声掛けをしてくれてたくさん支えてもらいました。大変だったこと、苦しかったことあります。それでも今こうやって本当に楽しかったと思えるのは仲間の存在があったからだと思えます。

研修を通して、中国への愛が深まったのはもちろん、素晴らしい仲間と楽しい思い出を作ることができ、本当に良かったと思います。

STさん





私は今回初めて中国への短期留学に行きました。申し込んだきっかけは、中国語を習い始めて中国語が好きになったこと、実際の中国を見てみたかったからです。

初日、福岡空港国際線から大連を経由し、中国国内線で天津へと飛行機で行きました。飛行機に乗って中国国内の大連に入り最初に感じたことは上空から見た空気の違いでした。日本の上空から見た空はとてもきれいなスカイブルーでした。しかし、中国の上空から見た空は曇って見えました。今日は曇りの天気だと思っていましたが、もう少し下に降りると晴れていました。工場の煙などで空気が汚れて曇って見えたことに驚きました。時差は-1時間でした。

天津師範大学の先生が天津空港で歓迎してくれました。空港から車で1時間ほどで大学の寮に到着しました。この時は時間はすでに8時過ぎていたので寮の食堂は閉まっていたので、お店で食事をしました。よくわからないままに胡先生が料理を注文してくれました。取り皿が最初に出てきましたが、日本のおもてなしの心での食器の出され方ではなく、プーメランを飛ばすように投げてきました。それにその食器はすこし汚れていました。引率の胡先生に、ティッシュをいつも持ち歩いてお皿をふかないといけないといわれてコップとお皿をふきました。料理は肉料理と野菜が多く、香辛料も強いと感じました。クラゲをつかった料理があり、クラゲのプニプニした食感を味わうことができました。

寮の部屋はとても綺麗でした。ベッドもとてもきれいでホテルのような一室だなと思いました。勉強する机もちゃんとあって嬉しかったです。初めてのお風呂は、シャワーの出し方がわからず、ルームメイトと苦労して出す場所を探しました。ピンを持ち上げると出るタイプでしたが、違うところを何回も押して、壊したり直したりして30分くらいでようやく入ることができました。寮でのトイレはとても綺麗でしたが、トイレレットペーパーのごみはごみ箱に捨てるというやり方でした。

土日はショッピングアーケードや遊園地に行きました。移動は地下鉄を利用しました。切符が紙ではなく緑色のプラスチックのコインで、コインをタッチしたら扉が開くというものでした。一番驚いたのは、地下鉄に乗るためにX線により荷物検査があったことでした。少し面倒くさかったです。バスにも乗りました。バスはどこまで行っても同じ路線だったらずっと同じ金額でした。ですが、バスによって値段が違いました。詳しくはよく覚えていませんが、冷房のある一段バスが2元、冷房のない一段バスが1.5元、冷房のある二段バスが3元でした。いずれもとても安いと思いました。日本には二段バスがなかなかないので、上から道路を見下ろせ楽しかったです。

ショッピングモールは、中国的なものよりも日本や他の海外の製品を売っているという感じでした。なかでも日本の製品はよく売れており、赤ちゃんのミルクや、紙おむつを大量購入する人を多く見かけました。

コンビニにもさまざまな国の製品や食品が売ってあって日本とは全然違う安さで売っていました。また韓国の化粧品や、中国製の服なども多く売ってありました。私もお店の人にサイズをはかってもらって140センチメートルのパンダのTシャツを買いました。

遊園地は「水城公園」という遊園地と動物園が合体した公園に行きました。合体しているところはあまり見ないので、新鮮でした。遊園地には日本のスペースワールドにあるような乗り物がたくさんありました。動物園ではパンダを見ることができて、本物のパンダ

のかわいさを知ることができました。

いろいろな文化体験もしました。餃子の作り方、本格的な切り絵や、習字、太極拳の見学などの内容でした。餃子は、自分たちで作った分と寮のシェフが作ったものと両方食べましたが両方ともとても美味しかったです。切り絵は絵の描き方や切り方が難しいのもあり、失敗作がいくつもできました。パンダや中国のキャラクターを作ることができて嬉しかったです。書道は筆使いが日本と異なっていて文化の違いを感じました。先生の書は細い字なのにとてもきれいで中国はやっぱ違うなと思いました。

校外学習では、いろいろな場所に行きました。万里の長城では、段差が異なり長すぎる階段を永遠と登ったりしました。疲れてきた途中でみんなで食べたアイスはとても美味しく感じました。敵から守るためにとても高い壁を機械なしに作った昔の庶民はとても大変だったと思いを馳せながらアイスを食べました。そしてせっかくの万里の頂上でしたが、下りの途中で足を怪我し、今でも病院通いをしています。次の日、全身の筋肉痛になったのも覚えてます。

古文化街では、昔の中国人の貴族が使っていた物のイミテーションや中国服や、色々なプレスレットや時計などが売られていました。最も中国らしい物や風景が見られるところで、一気に惹き込まれました。店の人たちは、丁寧にわかりやすく商品の説明をしてくれたところもあり、一方で言葉がわからないのを利用して色々売られそうになるところもありました。

観覧車や、遊覧船にも乗りました。観覧車は乗るためにペットボトルの中身を全部捨てないといけないうちにビックリしました。天津市内の中心にあり、天津全体が見えてとても綺麗でした。遊覧船は、一時間かけて往復しました。途中で漢字の柱があったり、ライトアップがされ、とてもきれいでした。船の中もとてもきれいで、のんびりと街を眺めることができました。

交通などの環境のこともたくさん違いを感じることもできました。交通は、車が優先で自分たちが横断歩道を渡ろうとした時も、普通に右折してきたりしてひかれそうになったのを覚えてます。

長崎の空気は、とても良いことを実感しました。天津ではマスクをしてはいませんが、小さなごみを吸い込みすぎて帰ってから鼻炎が止まらなくなりました。ほかにも道路に食べ物のかすや、ガムがへばりついていたりして靴がべたべたしたりした時もありました。掃除する人や警備員も携帯を触ったりして全然仕事をしていなかったのも驚いたし、仕事観の違いがなと思いました。

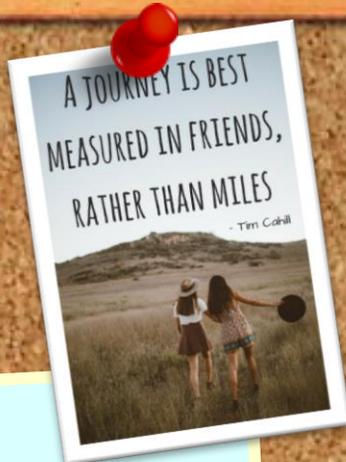
今回中国に行って、文化や物の価値の違い、空気の違い、交通状況の違い、接客態度などを知ることができました。ネットだけではなく、実際に行ってみないと体験できないことだと思えます。色々ありましたが、また機会があればいつか中国に旅行できたらいいなと思っています。

RMさん



# Induk University





### 印象に残ったこと

韓国の仁徳大学に半年留学し、印象に残ったことは、大学の敷地内にカフェとコンビニがあったことです。食堂や文具販売所があるのはもちろんのこと他にも、コンビニの店員さんがケータイで遊んでいたりと、車やバスの運転が荒かったり、どこでも化粧していたりと、印象に残ったものを上げていくとときがないので、省略します。

まず、韓国は化粧品屋さんとかカフェが沢山あって、日本人学生は僕と先輩の山口くん以外はみんな女の子だったので、一緒に遊んだりする時はいつも化粧品屋さん巡りで大変疲れました。その代わり、すごい女子力を手に入れることができ、女性の気持ちを読み取る力もつきました。

もうひとつは、ハプニングです。山口君と僕と日本人留学生二人とで韓国一週旅行をした時のことでした。結果から言いますと、旅行三日目にケンカをしてしまい、女の子一人を怒らせてしまったのです。僕たち三人はその子をなだめようと必死になりましたが、三人の思いは届かず、時間だけが過ぎていったのです。

しかし、僕たちは諦めませんでした。旅行先のご飯屋さんでインスタ映えしているお店を必死に探して連れて行き、何とか機嫌を取り戻すことに成功したのです。女性の気持ちを読み取るいい経験になりました。

もうひとつは、みんなお酒好きで、すぐ飲み会を開きたがるのが印象的でした。本当に些細な理由で、「今日は気分がいいから飲みに行こー！」とすぐに焼酎を飲みに行っていました。そして、僕たちはお酒に対し強靱な免疫力をつけることに成功しました。

### 感想

堅苦しいことが嫌いな僕にとって、この留生活は自由でのびのびと生活できて最高の日々でした。楽しい友達も沢山できて、授業も学生たちが盛り上げていく感じの、言葉では表現しづらいですがアクティブラーニングで、勉強が大嫌いな僕でもかなり楽しかったです。しかも、韓国はきれいな人たちでありふれていて、目が混乱していました。目がおかしいのかもしれないと思い、日本に帰ったら眼科に行こうと思いましたが、日本に帰ると普通の景色に戻っていたので、「僕の目をおかしくさせていたのは韓国美女だったのか」と安心しました。

すごく冗談染みた話ばかりでしたが、僕が留学させていただいた仁徳大学は本当に心からいいところなので、感動しました。学生だけでなく先生方も楽しい人たちばかりで最高に充実していました！！この感動を言葉で伝えるのはここまでが限界です。皆さんも未知の世界へ是非、一歩踏み出してみてくださいいかがでしょうか？

RYさん





**はじめに**

私は、韓国のソウルにある仁徳大学に半年間交換留学に行かせていただきました。2月22日には沢山の友達が見送りに来てくれ、韓国に行くことができました。

韓国の仁川空港で出迎えてくれた人は日本語の通じない学生支援課のスタッフの方でした。最初は戸惑いながら携帯の翻訳機や片言の韓国語、英語で会話してなんとか大学まで辿り着くことができました。

学生支援課では、事務委員の方が出迎えてくださり、今後の授業や寮のことを説明してくださったのですが、韓国語が全く理解できない状態でした。この時、一緒に留学に行った2年生の山本怜旺さんと2人であと半年間留学を乗り越えていけるだろうか、不安を共有して2人で頑張っていこうと話したことを思い出します。

**留学に行って挑戦したこと、頑張ったこと**

韓国に留学に行って、頑張ったことは勉強と他者とのコミュニケーションです。韓国語が全く分からずに留学に行った私は、字も読めずお店に行っても何もわからない状態でした。そのため、毎日の韓国語の語学学習はもちろん、留学先で出来た友達やお店の定員さんなどに自ら声をかけに行き、語学を覚えようと頑張りました。その甲斐があり、留学が終わるときには簡単な日常会話をマスターすることができました。

留学で挑戦したことは、5月に行われた球技大会に観光学科として出場したことです。大会はバスケット、サッカーの2種類で私は、バスケットに出場しました。結果は一回戦負けでした。しかし、毎日の練習や練習試合に参加し、日本人1人だけだった私を仲間に入れてくれて、韓国語の分からない私にやさしい単語で話しかけてくれたりしました。

**留学に行って成長したこと**

韓国に交換留学に行って成長したことは、言葉使いや礼儀など留学前に出来なかったことが出来るようになったと思います。言葉の通じない国で目上の方と喋るときの尊敬語、謙譲語など、日本でいつものように外国語で話すことはとても難しく、外国語を勉強しながら日本語も更に学ぶことが出来ました。

他にも、交換留学生の授業で文化を学びに観光地へ行き、韓国の伝統衣装のチマチョグリを着たり、韓国料理を作ったりと外国文化を学ぶことが出来て、日本とは違う文化や考え方があることを学び、考え方が大きくなりました。

**終わりに**

留学中に、日本にいる時よりも人と会話することや積極的に勉強に励むようになりました。韓国人の友達が沢山出来て、韓国に行く時は連絡をしたり、連絡をくれたりします。留学に行って、日本であまりしなかったことを積極的に取り組めるようになり、交換留学に行ってよかったと思っています。

そして、長崎ウエスレヤン大学に戻って、観光学先行全国大会にて韓国人向け長崎観光について、研究発表を行いました。その他にも、南島原市で韓国人修学旅行生や青少年団の旅行客の通訳事業などにも積極的に参加して、自分の韓国語向上に向け頑張っています。これから、留学を活かして韓国語能力試験や就職を頑張りたいと考えています。

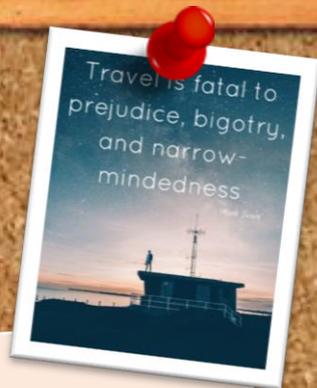
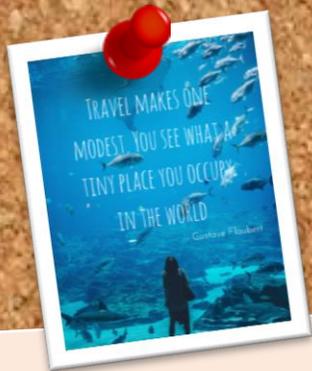
YYさん

Consonants	Vowels										
	개 (Ae)	애 (Ah)	예 (Ye)	예 (Yeh)	와 (Wa)	오 (Wo)	와 (Wae)	우 (We)	와 (Way)	위 (Wi)	오 (Oe)
ㄱ (G)	개	개	예	예	과	과	과	과	과	과	과
ㄴ (N)	네	애	예	예	나	오	와	우	와	위	오
ㄷ (D)	데	대	예	예	다	오	와	우	와	위	오
ㄹ (R/L)	레	래	예	예	라	오	와	우	와	위	오
ㅁ (M)	메	매	예	예	마	오	와	우	와	위	오
ㅂ (B)	베	배	예	예	바	오	와	우	와	위	오
ㅅ (S)	세	새	예	예	사	오	와	우	와	위	오
ㅇ (silent)	에	애	예	예	와	오	와	우	와	위	오
ㅈ (J)	제	재	예	예	자	오	와	우	와	위	오
ㅊ (CH)	체	채	예	예	차	오	와	우	와	위	오
ㅋ (K)	케	캐	예	예	카	오	와	우	와	위	오
ㅌ (T)	테	태	예	예	타	오	와	우	와	위	오
ㅍ (P)	페	패	예	예	파	오	와	우	와	위	오
ㅎ (H)	헤	해	예	예	하	오	와	우	와	위	오



# University of the Fraser Valley





When I came here soon, I needed many things such as food, bedsheet, shampoo and so on. But, I didn't know where shops are, how to go, who's helps me, so I couldn't eat dinner for a few days. I didn't know what I need in Canada because anybody couldn't tell me about it. I was a little angry and anxiety, but I thought it is no problem. It was my mission. Fortunately, there are many Japanese students in Baker House, UFV. When I went to go anywhere at first time, I depended them. It was really lucky because I could become accessible to supermarket and some shops early.

I spend busy days since starting the school. Of course, I am not allowed to speak Japanese. All class are only English. I think contents of classes are easy, but it is difficult to understand all completely. Moreover, a class has 3 hours, it was a little hard, but now, I can make friends so I enjoy everything! However, sometime, it is hard not to sleep in the class. I know I can't understand the class without getting up, and I don't want to waste my time. I must study. It is mainly my studying abroad. It is my motivation.

Even though, I want to play and go anyplace, so I often go and play! These day, I went skating. We can use the skating ring free. I couldn't skate well, I got some bruises. It is not bad memorial. I could know how fun to skate, so I want to go more! I also drink alcohol with my Japanese and Canadian friends. Canadian friends love drinking and eating, so I always enjoy that. I sometime have no confidence, but I drink, I'm not shy! I think it leads to make good friendship. And, I sometime want to eat Japanese food, so we held some Japanese Food Party such as Agemono, Nabe and so on. It is so lucky and delicious.

I am very happy to come and study here! I'm not still become homesick! I want you to know good points of Canada!

AHさん



# Thailand/Cambodia Study Tour Philippines Outreach



タイ東北部の村にある小さな小学校での活動日  
本語を教えたり、一緒に遊んだり、へろへろに  
なります



長崎ウエスレヤン大学には、数多くの留学・海外活動体験プログラムが用意されており、海外が非常に近い大学です。私は例年2月下旬ごろから一週間程度タイ北部のパヤオに行く、スタディーツアーに2年次に参加しました。

このスタディーツアーでは、子どもセンターや「ストリートチルドレンドロップインセンター」を訪問しました。

このスタディーツアーでは、観光では訪れることのないような場所や現地の人とふれあい、学びを深め、日本には味わえないような体験をしました。今回は、活動した内容から2点を紹介します。

### 子どもセンターでの活動内容と学び

子どもセンターは、寺院と隣接する児童館のような場所で、子どもたち（6歳～15歳頃）が遊びに来る場所です。私たちは、自分たちが企画した遊びを行ったり、日本食を振舞う等の活動を行いました。

私は、ある遊びの説明を任せられました。タイ語を話すことができないので通訳を通して、子どもたちに初めてその遊びの内容を説明をしました。しかし、通訳の方に分かりやすく伝えるのが難しく、自信を失ってその場を他の人に任せるという失敗をしてしまいました。

元々、人に分かりやすく伝えることが苦手という自覚はありましたが、2年間の学生生活の努力が足りなかったと認識しました。人に分かりやすく伝えるには、事前に説明する内容への深い理解と要領を得た簡潔な話し方の練習が必要です。私は、日本に戻った後、分かりやすい伝え方を学び、その実践を意識して生活しています。失敗を重ねることができるようこの大学生活がラストです。失敗は成功の母という言葉もあるぐらいです。ぜひ失敗を恐れずチャレンジしたいと思います。

### ストリートチルドレンドロップインセンターでの学び

何らかの事情で、ストリートチルドレンになった子どもたちが日中遊びに訪れたり、路上生活から抜け出すための自立支援を行っている場所です。

私たちは、この施設の概要の説明や、施設管理者の方が体験した談話を聞きました。写真のスライドショーには、目を覆いたくなる物もあり、自分の知ることができる範囲の狭さと現実の壮絶さを感じる事ができました。

このスタディーツアーに参加したのは、自分の五感で様々なことを感じたいと思ったことがきっかけでした。メディアを通して伝え知ること、実体験で感じ取り知ることの衝撃の違いに驚きもあり、より学びが深まります。メディアから情報を得ることが容易になった今だからその実体験の貴重さに改めて気付くことができました。

HSさん





私はタイに留学させてもらい日本の常識や文化が通用しなかったり、逆に日本人のきっちりとした常識やルールは本当に大切だと感じさせられたり、いろんな経験の中で、自分を見つめ、考え直し、駄目な自分を変えていかなければいけないと思うことが多くありました。タイの生活で学び、私がどう変わっていくかを書いていきます。

突然ですが、タイは世界で2番目に飲酒運転などの交通事故で亡くなる人が多い国です。2017年の4月だけの死者数で約1400人、計算すると毎日約45人前後の人が交通事故で亡くなっていることとなります。タイでは対策としてお酒の値段を高くしたりしていますが、なかなか事故の件数が減らないということが現実です。

私のタイの大学の友人も夜遅くまでお酒を飲み、飲酒運転で亡くなってしまいました。後日、その子の両親が学校を訪れた時に、偶然にも大学関係者とその子の両親がその事故について話しているところを目にしたのですが、胸が苦しくなり到底見続ける事が出来ない光景でした。

私は大学生の時に両親や兄から再三、飲酒運転やヘルメットのホックをしっかりと閉めるように言われ、面倒に思っていました。家族やご指導くださった先生たちや周りの方たちは、私を心配してくださっていたと気付かされました。

今まで人の愛情や感謝しない時期がありましたが、今は「感謝する気持ち」や「愛情を与えてもらった」という気持ちで一杯です。今までは与えてもらうばかりだったので、その方たちが生きているうちにまたこれから出ていく方たちに返し与えられる人間になれるようにしっかりと自立して生きていきます。

留学生活上で欠かせないのが、洗濯や掃除です。23年間、全て他人任せだった私は、洗濯や掃除がここまで大変とは思いませんでした。「やらなければ溜まり、やれば溜まらない」と考え、面倒くさいことに慣れるとこなせるようになりました。食事です、キッチンが無く自炊は出来ません。また自炊の方が費用が高くなるため、コンビニや屋台、レストランで済ませます。日本にいるより裕福な生活を送っています。

毎日朝早くから起きて弁当と御飯を文句一ついわず、当たり前のようにとても美味しく作ってくれた母に感謝し尊敬をしています。

もし私が自炊をすれば、作れるおかずがない、仕事で疲れて出来ない等の理由をつけてやらないと思います。これから作れる料理を増やし、洗濯や部屋の掃除の仕方や節約料理の方法を母などから教わりたいと思いました。帰国後、母に弟子入りし、自分で自炊や洗濯、掃除、身の回りのことが出来るようになり、そして将来はイクメンパパになりたいと思います。

またタイの大学長のDr.KASOM CHANAWONGSEにたびたび晩御飯をご馳走になりました。Drカソム教授と食事をご一緒することは非常にありがたく恵まれた事であり、すごく貴重な体験をさせてもらっています。このような体験が出るのは、長崎ウエスレヤン大学の先生方や南川恵先生、タイの方たちのお蔭様ということ忘れずに、また私がお蔭様と思う人達に恩を仇で返すことを絶対にしないように責任感をもって生活していきたいと思っています。

タイに来ては物事を様々な角度から見ようになりました。6ヶ月が経ち、日本の常識が、通用しないことが多々あり「非常識な日本人だ」と思われることがあると学びました。

また私はタイ国に住まわせてもらっている身分です。「郷に入れば郷に従え」という日本の言葉があるよう、タイの文化に従わなければいけません。「日本の文化では間違っていると思うことでも、住まわせてもらっているので従わなければならないことがある」ということと私の常識などタイ人や外国人からするとただのその人の性格・人柄に過ぎないことを学ばせてもらいました。

また日本人はアニメや車のメーカーや電化製品や日本のスポーツ・文化がタイや外国ではとても人気があると実感することが多くあります。注目されている日本人として、謙虚に人のために生きていきます。今までは周りに流され、出来ることから理由をつけて逃げてきた23年間だと思いました。今後、後悔のない人生を歩んでいくために信頼できる大人の言うことでも最後は自分で決めて自分の意思に責任を持ち生きていきたいです。タイに来て日本では出来ない経験をさせてもらっているのも日本でも活用できることを見付けられるよう、残りの約5ヶ月で勉強していきます。

FSさん





私はこの長崎ウエスレヤン大学に入学してから、3回にわたってカンボジアでのスタディツアーに参加してきました。このツアーの目的は、ボランティア活動を通して現地の人たちと交流を深め、カンボジアで起こった歴史などを学び、途上国の現状や貧困、平和について考えることです。

1年生の時、将来は海外で働きたいと考え、大学生のうちに海外経験をしておきたいと思っていたことから、夏期休暇に実施されるこのカンボジアスタディツアーへの参加を決めました。

カンボジアは東南アジアのインドシナ半島に位置する、ベトナム、ラオス、タイと国境を接している国です。一年中気温は暖かく、季節は雨季と乾季があります。世界遺産のアンコールワットがあることから、世界中からの観光客は多く、首都のプノンペンでは建物も増え、経済成長が進んできています。カンボジアの人々はみんな明るく、活気に溢れています。しかし、このカンボジアには内戦と虐殺という悲惨な歴史の傷跡が残されています。

1970年、ベトナム戦争が激化する中、カンボジアは反米派と親米派に分かれ、巻き込まれるような形で内戦が起きました。1975年、ポルポト政権樹立後、知識人を対象とした大量虐殺が行われ、およそ300万人の罪のない人々が殺されたと言われていています。今でも内戦時に埋められた地雷が、推定400万~600万個残っています。私たちは、虐殺が行われたキリングフィールドや、トゥールスレン収容所に行きました。目を背けたくなるような絵や写真を見て、当時の状況を学びました。私たちと一緒にツアーに参加してくださっている現地の人たちの中には、元兵士だった人や、家族が殺された人もいました。とても明るく振る舞っているけど、悲惨な体験してきた人々がたくさんいることを知りました。現代を生きる私たちは、このような世界中にある悲惨な歴史にしっかりと目を向け、2度と同じことを繰り返さないため、亡くなった犠牲者の人々のために、「学ぶ」ということがとても大切だと思いました。

私たちのボランティア活動の主な場所は、カンボジアの孤児院でした。孤児院では、家庭の経済的な理由などから、親と一緒に生活ができない子どもたちが暮らしています。私たちは孤児院で、日本から集めて持ってきた衣類を配ったり、建物のペンキ塗りをしたり、料理を作るなどの活動を行ってきました。子どもたちはみんな遅しく、明るく、とても元気でした。子どもたちから学ばされることも多くありました。私は今年の夏期休暇のツアーでは、三度目の参加になり、他の参加者とは別行動をとり、孤児院にインターンシップをしてきました。

主な活動は農作業の手伝いや、日本語の授業を行うことでした。言語によるコミュニケーションが難しい場で、日本語を教えることは本当に大変でした。特に、カンボジアのクメール語にはない発音があるので、伝えるのにも、覚えてもらうのも苦労しました。

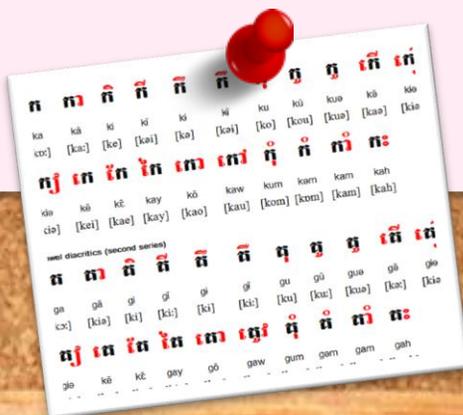
子どもたちはみんな勉強することに対して嫌がらず、むしろ積極的に質問をしてくれたり、覚えた言葉をすぐ使ったりなど、日本の子どもたちの勉強することに対する意識の違いを見つけました。教える側は大変だったけど、それ以上にやって良かったという達成感や充実感を得ることができました。

日本語教育について関心を持ち、大学でもっと日本語教育について学びたいと思いました。また、日本語を一方的に教えるだけでなく、子どもたちや、孤児院で暮らす大学生たちから、カンボジアの言語であるクメール語を覚えてもらいました。

クメール語は文法が英語や中国語と似ていて、単語を覚えれば少し話せるようになりましたが、発音が非常に難しく、なかなか覚えられませんでした。私も日本語を勉強する子どもたちのように、積極的に質問したり、覚えた言葉を生活の中で使うようにしました。私と子どもたちの間で、お互いに学び合う良い関係が生まれ、最後には日常会話を少し習得することができました。孤児院でのインターンシップは短い時間だったけど、毎日多くのことを学び、体験し、とても充実した時間でした。

これまでのカンボジアスタディツアーに参加してきて、今までの自分の中で最も変わったものは、「学ぶ」ことに対する意識です。世界で起こってきた悲惨な歴史や、今でも貧困や戦争で苦しんでいる多くの人々、日本という恵まれた環境に生まれた私たちは、この現状を知らなければいけません。狭い価値観や固定概念にとらわれず、多くの視点から物事を知り、考え、学んでいくことが重要であると、私はこれまでのカンボジアでの経験で気付きました。

TAさん



カンボジア地雷撤去の現場を視察地雷原で暮らす人々がいることを知り、地雷原で走り回る子どもを目の当たりにし、困惑していた学生たち。



ポルポト政権による大虐殺。この時代に、医師や教師など多くの知識人を含む**200~300万人**が犠牲となりました。カンボジアの復興が遅れた原因の一つとされている。外国に足を踏み入れるのであれば、その国の歴史を知ることが大事だと実感。



8月16日から30日までの2週間、カンボジアスタディツアーに参加した。

カンボジアには悲惨な歴史がある。カンボジア内戦でロン・ヌル政権が破れ、ポル・ポト政権へと代わってから悲劇が始まった。まずポル・ポトは都市部にいた人々を、農業に従事させるため農村部へと追いやった。さらに、“知識は人々の間に格差をもたらす”、“国を指導するもの以外の知識人は不要である”とし、医者や教師、学生などの知識人をトラックへ乗せ収容所へと送った。海外へ行ったことがある者、眼鏡をかけている者など、知識があると思われた者は、次々と殺されていった。虐殺のほかにも干ばつ、飢餓、疫病などで亡くなった人の数は300万人くらいとされている。

現在のカンボジアにも戦争の爪痕が残されている。教育面では、過去に知識人が大量虐殺にあったことが影響し、教員不足に陥っている、学校に行きたくてもお金がなくて行けない、勉強をしたくても親の仕事を手伝わなければならない子供たちがいる、ノートや鉛筆が買えないなど様々な課題が残されている。その他にも、物乞いをする人、ゴミの中で生活する人、所得が低く生活に苦しんでいる人、地雷の撤去なども今後の大きな課題となっている。

カンボジアではホーム1、ホーム2と呼ばれる孤児施設での活動を行った。孤児施設と聞くと、親がいない、親と離れて生活しなければならないというイメージがあり、子供たちはどんな表情で私たちを迎えてくれるのかとても不安だった。孤児施設に到着すると、たくさんの子供たちが全力の笑顔で、私たちが乗っているバスに駆け寄ってきてくれた。荷物を運ぶ時も率先して手伝ってくれた。言葉が通じなくても、英語を使って一生懸命コミュニケーションをとろうとしてくれた。みんなとても人懐っこく、本学の学生も、一緒にツアーに参加した福岡女学院の学生たちも、すぐに打ち解け仲良くなった。何事にも一生懸命で、日本語を教わるのも、料理を手伝うのも、遊ぶのも、走り回るのも、常に全力な子供たちを尊敬した。つまりで転んでも、壁に頭をぶつけても、涙を流すことなく、すぐに元気になり、また走り回って楽しんでいる子供たちを見て、私たち日本人より何倍もパワーがあり、強いと感心した。“学校に行きたくても行けない”と聞いていたが、私たちより堂々と英語を話していたことにも驚いた。覚えてたの日本語も忘れないようにたくさん使ってくれた。子供たちのために用意した折り紙やミサンガなどは、私たちよりも器用に作っていた。活動を通して子供たちに日本の文化や言葉などを学んでもらえたら、と思っていたが、私たちのほうが子供たちから教えてもらうことが多かった。

このツアーでは楽しいことばかりではなく、戦争による悲惨な出来事や、悲しい歴史も学んだ。数多くの地雷が埋められている地雷原に行った時は、とても緊張した。一歩間違えて足を踏み入れたら、大事故につながると想像しただけでも怖かった。実際に地雷が爆発する様子も見ることができた。物凄い衝撃と爆音が響き渡り、地雷の恐ろしさを改めて感じる事ができた。地雷の撤去活動をしている人の中には、女性や実際に地雷による被害にあった人もいた。危険と隣り合わせだと知っていても、誰かが被害にあわないように活動している人を見て、私にはとても真似できないと感じた。地雷撤去は決して楽しい作業ではない。でも、被害が拡大しないように、また誰かが被害にあって苦しまなくていいように活動を続ける人たちを見て、本当に強く逞しいと感じた。

地雷原だけでなく、トゥールスレンやキリングフィールドにも行った。トゥールスレンはS-21という名もあり、何人もの人々が拷問を受け、処刑された場所である。高校の校舎を転用して作られた監獄で、部屋の中を見ると1つのベッドが置かれている。ただそれだけを見ると何があった部屋なのか分からないが、壁にかけられている写真には拷問を受け遺体となって発見された人が写っていた。あまりにも衝撃が強すぎて、きちんと見ることはできなかった。他にも、拷問に使われた道具、犠牲者の写真、看守となった子供、拷問の様子が描かれたイラストなどがあり、本当に虐殺が行われていたのだと思い知らされた。同じ人間として、なぜこれだけたくさんの罪のない人々を殺すことができたのかと怒りと悲しみを感じた。キリングフィールドには慰霊塔があり、犠牲となった人々の遺骨が安置されていた。中に入り遺骨を見ることができたが、あまりの息苦しさに早く外へ出たいと思った。約30年前にはたくさんお人々が苦しみ亡くなった場所だが、今では豊かな自然が広がっており、とても過去にあった悲惨な出来事が事実だとは感じられなかった。

この2週間で本当にたくさんのお話を学ぶことができた。カンボジアに行ったことで戦争の恐ろしさを感じる事ができた。同じことが2度と繰り返されないよう、もっと多くの方が悲惨な歴史があったという事実を学び、忘れないようにしなければならなかった。その一方で、カンボジアの人々の優しさ、強さ、逞しさも感じてほしいと思った。子供たちの笑顔がこれからもずっと見られるように私にできることを探し行動していきたい。またカンボジアに行きたいと心から感じたし、行ったことがない人は一度でもいいから行ってもらいたい。このツアーに参加できて本当に良かった。

ESさん



日本で集めた古着を、カンボジアの孤児院へ届けました！





The Philippines Outreach Program is in cooperation with Baguio City, Philippines. A different elementary school is visited every year. Activities include a variety of charity work such as packing and distributing school supplies, teaching volunteer language classes, medical mission and feeding programs as well as participation in clean-up campaigns of picking up litter along a national road and cleaning a children's park with the Chrysanthemum Lions Club.

The program's previous activities included a courtesy visit at the University of Baguio, an English Class at the University of Baguio exchange students at Nagasaki Wesleyan University, volunteering for charity work, packing school supplies and distributing them at Saddleback Elementary School and Kabuyao Elementary School with Lapis at Papel (LAP) and Pusong Mamon, Feeding Program at Laurel Elementary School and teaching Japanese at St. Louis University Graduate School.



フィリピン☆アウトリーチプログラム  
小学校へノート、鉛筆、鞆などを寄付します



フィリピン・バギオ市民の主な交通手段である  
ジプニー(乗り合いバス)日本ではありえませ  
んが、荷台部分にお客さんは乗ります！

### Acknowledgements:

Background illustrations referenced from freepik.com. URL: <https://www.freepik.com/free-photos-vectors/brochure>

Travel quotes and illustrations referenced from grassrouteadventures.com article "25 travel quotes to inspire you to study abroad" URL: <http://grassrouteadventures.com/25-travel-quotes-inspire-study-abroad/>



## 鎮西学院大学

〒854-0082

長崎県諫早市西栄田町1212-1

TEL : 0957-26-1234

URL : <http://www.wesleyan.ac.jp/>

